

# Oracle Collaboration Suite for Windows

リリース・ノート

リリース 1 (9.0.3)

2003 年 5 月

部品番号 : J07313-01

---

Oracle Collaboration Suite for Windows リリース・ノート, リリース 1 (9.0.3)

部品番号 : J07313-01

原本名 : Oracle Collaboration Suite Release Notes Release 1, Version 9.0.3.0.1 for Windows

原本部品番号 : B10263-01

Copyright © 2003, Oracle Corporation. All rights reserved.

Printed in Japan.

制限付権利の説明

プログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）の使用、複製または開示は、オラクル社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権に関する法律により保護されています。

当プログラムのリバース・エンジニアリング等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。オラクル社は本ドキュメントの無謬性を保証しません。

\* オラクル社とは、Oracle Corporation（米国オラクル）または日本オラクル株式会社（日本オラクル）を指します。

危険な用途への使用について

オラクル社製品は、原子力、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションを用途として開発されておりません。オラクル社製品を上述のようなアプリケーションに使用することについての安全確保は、顧客各位の責任と費用により行ってください。万一かかる用途での使用によりクレームや損害が発生いたしましても、日本オラクル株式会社と開発元である Oracle Corporation（米国オラクル）およびその関連会社は一切責任を負いかねます。当プログラムを米国国防総省の米国政府機関に提供する際には、『Restricted Rights』と共に提供してください。この場合次の Notice が適用されます。

Restricted Rights Notice

Programs delivered subject to the DOD FAR Supplement are "commercial computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs, including documentation, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement. Otherwise, Programs delivered subject to the Federal Acquisition Regulations are "restricted computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs shall be subject to the restrictions in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software - Restricted Rights (June, 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このドキュメントに記載されているその他の会社名および製品名は、あくまでその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

---

# 目次

はじめに .....	v
リリース・ノートの構成について .....	v
マニュアルに記載されている名称について .....	v
最新情報の入手について .....	v

## 1 日本語環境での使用上の注意

<b>Oracle Collaboration Suite 全般</b> .....	1-2
サポートされないコンポーネントについて .....	1-2
パッチの適用について .....	1-2
Oracle 9iAS Infrastructure について .....	1-3
Oracle Collaboration Suite Information Storage について .....	1-3
動作要件について .....	1-3
Oracle Real Application Clusters 対応について .....	1-3
ユーザー名の制限事項 .....	1-3
Web インタフェースへのログイン時に Oracle SSO Warning が発生する問題について .....	1-3
ドキュメントの訂正と補足 .....	1-4
<b>Oracle Email</b> .....	1-5
Oracle Email SDK について .....	1-5
Oracle Email Migration Tool について .....	1-5
マルチバイト文字の使用制限について .....	1-5
Oracle Email Web インタフェースの言語設定について .....	1-5
Web インタフェースの制限事項について .....	1-5
Web インタフェースにおける Netscape Navigator での制限事項 .....	1-6
IMAP サーチの制限 .....	1-6
プロトコル・サーバー管理画面のブラウザ操作について .....	1-6
メッセージのフォルダ間移動について .....	1-6
<b>Oracle Files</b> .....	1-7
レビュー・プロセス機能について .....	1-7
SMTP サーバーの指定について .....	1-7
Oracle Files 起動 / 停止の制限について .....	1-7
OID からプロビジョニングされる Oracle Files ユーザーについて .....	1-7
Web ユーザー・インタフェース以外のプロトコルでログインできない場合について .....	1-8
アーカイブ・ファイルの格納に BFILE を使用する場合の注意事項 .....	1-8
Oracle Files Web インタフェースでの日付フォーマットのヒントについて .....	1-8
Web ブラウザのステータス・バーにおける文字化けについて .....	1-8

Netscape Navigator での制限事項 .....	1-8
メール送信機能の制限 .....	1-9
自動送信メールの DATE ヘッダについて .....	1-9
クォータ追加要求メールの内容について .....	1-9
ファイル圧縮 / 解凍機能の制限について .....	1-9
ドキュメントの訂正と補足 .....	1-9
Files ポートレットの制限について .....	1-9
クォータ残量に関係なくコピーできる問題 .....	1-9
<b>Oracle Internet Directory と Oracle Single Sign-on</b> .....	1-10
LDIF ファイル作成時の注意事項 .....	1-10
Single Sign-on ユーザー情報における画像の登録について .....	1-10
DAS からのユーザーの登録・編集についての注意点 .....	1-10
<b>Oracle HTTP Server</b> .....	1-11
DAD のデフォルト・ページの設定の必要性 .....	1-11
DAD 設定時ブラウザ画面が空白になる問題について .....	1-11

## 2 Oracle Collaboration Suite リリース・ノート

このマニュアルの目的 .....	2-2
コンポーネントのリリース・ノート .....	2-2
オペレーティング・システム要件 .....	2-2
オペレーティング・システム要件 .....	2-2
環境変数の設定 .....	2-3
仮想メモリのページング・ファイルのサイズ変更 .....	2-3
<b>インストールの問題</b> .....	2-4
インストールの問題 .....	2-4
インストール後の問題 .....	2-5
<b>管理の問題</b> .....	2-7
Search .....	2-7
グローバリゼーション .....	2-7
Oracle Internet Directory .....	2-9
Mod_osso .....	2-9
<b>コンポーネントの問題</b> .....	2-11
Oracle Email の問題 .....	2-11
Oracle Files の問題 .....	2-11
<b>ドキュメントの誤記</b> .....	2-14
『Oracle Collaboration Suite for Windows インストール・ガイド』 .....	2-14
『Oracle Collaboration Suite 管理者ガイド』 .....	2-14
『Oracle9iAS Single Sign-On 管理者ガイド』 .....	2-14
『Oracle Email 管理者ガイド』 .....	2-15

## 3 Oracle Collaboration Suite リリース・ノート追加情報 1

インストールの問題 .....	3-2
コンポーネントの問題 .....	3-2
Oracle Email .....	3-2
Oracle Files .....	3-3

## 4 Oracle Collaboration Suite リリース・ノート追加情報 2

コンポーネントの問題 .....	4-2
------------------	-----

Oracle Email .....	4-2
ドキュメントの誤記 .....	4-2
『Oracle Collaboration Suite for HP 9000 Series HP-UX, Linux Intel, and Solaris Operating System (SPARC) インストール・ガイド』 .....	4-2

## 5 Oracle Email for Windows リリース・ノート

このリリースでの新機能 .....	5-2
クライアント・ソフトウェア .....	5-2
一般的な問題および解決方法 .....	5-2
構成上の問題および解決方法 .....	5-4
JDBC Bug#2403347 の適用 .....	5-4
umbackend.zip ファイルの適用 .....	5-4
重複なしフラグ属性の設定 .....	5-4
SSL モードでのプロトコル・サーバーの実行 .....	5-5
複数の電子メール・ドメインを持つ Oracle Email の構成 .....	5-5
既知の問題点 .....	5-7
コア・サーバー .....	5-7
プロトコル・サーバー .....	5-8
Thin クライアント .....	5-8
ドキュメントの誤記 .....	5-11
install_infra.sql スクリプトの実行 .....	5-11
LDAP Connection Retry Interval パラメータ .....	5-11
リスト・サーバーのリスト・タイプ .....	5-11

## 6 Oracle Files for Windows NT/2000 リリース・ノート

Oracle Files の概要 .....	6-2
認証およびシステム要件 .....	6-2
対応クライアント .....	6-2
Microsoft Windows .....	6-2
Apple Macintosh .....	6-3
UNIX .....	6-3
グローバリゼーション・サポートの問題点 .....	6-3
キャラクタ・セットの制限 .....	6-3
Oracle Files のユーザー名へのマルチバイト・キャラクタの使用禁止 .....	6-3
Oracle Internet Directory の問題点 .....	6-3
特定のプロトコル・サーバーでの Oracle Files 固有のパスワードの使用 .....	6-3
Oracle Internet Directory レプリケーション・サーバーを使用した Oracle Internet Directory の 変更ログのクリーンアップ .....	6-4
クライアント固有の問題点 .....	6-4
Oracle FileSync ユーティリティ .....	6-4
ドキュメントの問題点 .....	6-5
NTFS プロトコル・サーバーの構成 .....	6-5
Windows ユーザーによるネットワーク・ドライブとしての Oracle Files のマップ .....	6-6
Windows NT/2000 のファイル共有に関するトラブルシューティング .....	6-7
NFS での Oracle Files の使用 .....	6-7
NFS サーバーの構成 .....	6-7
Webcache が有効な状態での Oracle Files の実行 .....	6-10
既知の問題 .....	6-12
構成上の不具合 .....	6-12

管理上の不具合 .....	6-13
NFS の不具合 .....	6-14
AFP の不具合 .....	6-14
NTFS の不具合 .....	6-14
Oracle Files の一般的な不具合 .....	6-15
HTTP の不具合 .....	6-17
Oracle FileSync の不具合 .....	6-17

---

# はじめに

このドキュメントは、Oracle Collaboration Suite リリース 1 (9.0.3.0.1) に付属するリリース・ノートです。

このドキュメントには、マニュアルに記載されている情報を補足するまたは置き換える内容が含まれています。参考情報として、次のドキュメントも参照してください。

- 『Oracle9i Application Server for Windows リリースノート』
- 『Oracle9i Application Server プラットフォーム共通 リリースノート』

これらのドキュメントは、以下の「最新情報の入手について」で紹介されている OTN-J (Oracle Technology Network Japan) で入手できます。

## リリース・ノートの構成について

このリリース・ノートの第 2 章以降は英語リリース・ノートの翻訳版です。日本語環境固有の情報については、第 1 章を参照してください。

## マニュアルに記載されている名称について

Oracle Collaboration Suite 関連マニュアルは、英語版を翻訳しているため、マニュアル中で参照されている情報には、日本では提供されていないものも含まれます。

- インターネット URL
- マニュアル名
- ソフトウェア名

## 最新情報の入手について

日本オラクルでは、インターネット開発者向けのあらゆる技術リソースを、24 時間 365 日提供するコミュニティ・サイト OTN-J (Oracle Technology Network Japan) を運営しています。OTN-J では、最新の技術情報、オンライン・マニュアル、ソフトウェア・コンポーネントなどを、無料で入手できます。

<http://otn.oracle.co.jp/>





---

## 日本語環境での使用上の注意

この章では、以下の項目について説明します。

- [Oracle Collaboration Suite 全般](#)
- [Oracle Email](#)
- [Oracle Files](#)
- [Oracle Internet Directory と Oracle Single Sign-on](#)
- [Oracle HTTP Server](#)

## Oracle Collaboration Suite 全般

ここでは、以下の項目について説明します。

- サポートされないコンポーネントについて
- パッチの適用について
- Oracle 9iAS Infrastructure について
- Oracle Collaboration Suite Information Storage について
- 動作要件について
- Oracle Real Application Clusters 対応について
- ユーザー名の制限事項
- Web インタフェースへのログイン時に Oracle SSO Warning が発生する問題について
- ドキュメントの訂正と補足

## サポートされないコンポーネントについて

本リリースの Oracle Collaboration Suite では次のコンポーネントはサポート対象外です。

- Oracle Calender
- Oracle Voicemail & Fax
- Oracle Wireless & Voice
- Oracle Collaboration Suite Search (Oracle Ultra Search)

## パッチの適用について

本リリースの Oracle Collaboration Suite では、製品出荷時点における既知の不具合を改善するための複数の個別パッチが提供されています。これらのパッチには重要な修正が含まれているため必ず適用してください。

パッチは Oracle Collaboration Suite Release 1 (9.0.3) Update Kit CD-ROM に含まれています。

パッチ番号 (Patch#xxxxxxx) は Update Kit CD-ROM 内のフォルダ名に対応しています。

例: Patch#1234567 は、Update Kit CD-ROM 内の P1234567 フォルダに含まれています。

なお、製品ドキュメントには、個別にこれらのパッチに関する記述が記載されている場合がありますが、以下の手順に従って適用することで必要なパッチをすべて適用することができます。

個別パッチの適用方法については、各パッチの zip ファイル内にある README.txt をご参照ください。

1. Oracle Collaboration Suite をインストールし、必要なコンポーネントを構成します。
2. すべての Middle-Tier コンポーネントを停止します。
3. Patch#2712659 (PERF IMPROVEMENT CHANGES FOR QUERIES WITH PLSQL TABLES)

Oracle Email を構成した場合に限り、Middle-Tier の Oracle ホームで適用します。すべてのメールストア・データベースに対して実行します。

4. Patch#2725783 (SUMMARY BUG FOR WEBMAIL MINI PATCH 5)

Oracle Email を構成した場合に限り、Oracle Email を構成しているすべての Middle-Tier Oracle ホームに適用します。

5. Patch#2588265 (IMAP4/POP3 SERVER DIED DURING STRESS TEST)

Oracle Email を構成した場合に限り、Oracle Email を構成しているすべての Middle-Tier Oracle ホームに適用します。

6. Patch#2634850 (NLS:OC4J REJECT WEBFOLDER REQUEST TO UPLOAD MULTIBYTE FILENAME INCLUDING 5C)

すべての Middle-Tier Oracle ホームに適用します。

## 7. Patch#2805941 (FILES 9.0.3.3.0 PATCHSET TRACKING BUG FOR OCS V1 RELEASE)

Oracle Files を構成した場合に限り、Oracle Files を構成しているすべての Middle-Tier Oracle ホームに適用します。

## 8. 必要な Middle-Tier コンポーネントを起動します。

# Oracle 9iAS Infrastructure について

本リリースの Oracle Collaboration Suite でサポートされるのは、Oracle Collaboration Suite CD-Pack に付属の Oracle 9iAS Infrastructure のみです。

# Oracle Collaboration Suite Information Storage について

本リリースの Oracle Collaboration Suite でサポートされるのは、Oracle Collaboration Suite CD-Pack に付属の Oracle Collaboration Suite Information Storage のみです。

# 動作要件について

Oracle Collaboration Suite の動作要件に関する最新情報は、日本オラクル・ホームページの製品情報ページにあるシステム要件をご参照願います。

# Oracle Real Application Clusters 対応について

Oracle Collaboration Suite の Oracle Real Application Clusters 対応に関する最新情報については、日本オラクル・ホームページの製品情報にあるシステム要件ページをご参照願います。

# ユーザー名の制限事項

Oracle Collaboration Suite のユーザー名にマルチバイト文字を使用することはできません。

# Web インタフェースへのログイン時に Oracle SSO Warning が発生する問題について

一部のブラウザでは、Oracle Collaboration Suite の Web インタフェースにログインする場合に、Oracle SSO Warning が発生することがあります。この場合、Oracle9iAS Single Sign-On のパートナ・アプリケーションのポート番号を、Web Cache のポート番号に変更してください。変更方法は以下のとおりです。

1. ブラウザで以下の URL を指定して、Oracle9iAS Single Sign-On のホームページを開きます。  
`http://<Infrastructure ホスト名>:<ポート番号>/pls/orasso`
2. 「ログイン」をクリックし、Oracle9iAS Single Sign-On の管理者でログインします。  
デフォルトの管理者名は `orcladmin` で、パスワードは `ias_admin` のパスワードと同じです。
3. 「SSO サーバー管理」をクリックします。
4. 「パートナ・アプリケーションの管理」をクリックします。
5. 「パートナ・アプリケーションの編集 / 削除」セクションから、該当する Middle-tier アプリケーションの「編集」アイコンをクリックします。
6. 以下の URL のポート番号を、Web Cache のポート番号に変更します。
  - ホーム URL
  - 成功 URL
  - ログアウト URL
7. 「適用」ボタンをクリックし、「OK」ボタンをクリックします。

## ドキュメントの訂正と補足

「Oracle Collaboration Suite インストレーション・ガイド」に記載されているメモリー要件（512MB）は、3 ノード構成にした場合の各マシンに対する最低要件です。

## Oracle Email

ここでは、以下の項目について説明します。

- [Oracle Email SDK について](#)
- [Oracle Email Migration Tool について](#)
- [マルチバイト文字の使用制限について](#)
- [Oracle Email Web インタフェースの言語設定について](#)
- [Web インタフェースの制限事項について](#)
- [Web インタフェースにおける Netscape Navigator での制限事項](#)
- [IMAP サーチの制限](#)
- [プロトコル・サーバー管理画面のブラウザ操作について](#)
- [メッセージのフォルダ間移動について](#)

## Oracle Email SDK について

Oracle Email SDK (Software Development Kit) はサポート対象外です。

## Oracle Email Migration Tool について

本リリースでは、Oracle Email Migration Tool はサポート対象外です。

## マルチバイト文字の使用制限について

本リリースの Oracle Email では、以下のマルチバイト文字使用に関する制限事項があります。

- マルチバイト文字を含むメール・アドレスには対応していません。
- 自動返信メッセージにマルチバイト文字を使用することはできません。
- 自動返信を設定している場合、マルチバイトのサブジェクトを持つメッセージに対する自動返信メッセージのサブジェクトが文字化けします。
- メーリング・リストの紹介文や招待文にマルチバイト文字を使用することはできません。
- フィルタで「通知メールを以下に送信する」を設定した場合、通知対象メッセージのサブジェクトにマルチバイト文字が含まれている場合、通知メール内のサブジェクトが文字化けします。

## Oracle Email Web インタフェースの言語設定について

Oracle Email Web インタフェースの言語設定は、シングル・サインオン時に選択した言語により決定されます。

## Web インタフェースの制限事項について

本リリースの Oracle Email Web インタフェースでは、次の制限事項があります。

- Web インタフェースを Oracle Email 以外のメール・サーバー用クライアントとして使用することはできません。
- ボイス・メールと Fax 機能は使用できません。
- 管理者によるユーザーの自動返信設定の解除ができません。自動返信の解除は、ユーザー自身が行う必要があります。
- 管理者によるユーザーの転送設定は使用できません。設定を行った場合、転送解除ができなくなります。
- 管理者用オンライン・ヘルプは未翻訳です。
- Web インタフェースを使用してメッセージを送信する場合、キャラクタセットは UTF-8 固定です。

- TIMEZONE が正しく設定されません。このため、メッセージ一覧の日付フィールドはグリニッジ時間で表示されます。
- 一部のブラウザでは、メッセージ一覧におけるメッセージの並び替えで異常終了する場合があります。
- Netscape Messenger から送信されたメッセージのサブジェクトが正しく表示されない場合があります。
- リッチ・テキスト・モードでのメッセージ編集時、日本語のフォントは選択できません。
- 一部のブラウザでは、リッチ・テキスト・モードでのメッセージの編集、ならびに HTML 形式の署名が使用できません。
- フィルタ設定の「SMS 通知を送信する」はサポート対象外です。

## Web インタフェースにおける Netscape Navigator での制限事項

- 日本語文字列が正しく表示されない場合があります。この場合、次のように設定を変更することで解消されます。
  1. 「編集」メニューから「設定」を選択します。
  2. カテゴリ欄の「表示」ツリーから「フォント」を選択します。
  3. 右側の設定項目で「ドキュメント指定のフォントを無視して、設定したフォントを使用」を選択します。
  4. 「OK」をクリックして設定を保存し、再度アクセスします。
- Netscape Navigator では、ポインティング・デバイスをボタンやアイコン上に移動した時に表示されるバナー・ヘルプ内の日本語文字列が正しく表示されないことがあります。
- マルチバイト文字を含む名称を持つファイルを添付できない場合があります。

## IMAP サーチの制限

IMAP 対応の一部の Email クライアント・ソフトウェアでは、IMAP サーチ・コマンドを使用して、IMAP サーバー上のメッセージ全文検索を行います。本リリースの Oracle Email では、日本語を指定した IMAP サーチ・コマンドは使用できません。

## プロトコル・サーバー管理画面のブラウザ操作について

Oracle Enterprise Manager Web Site の Oracle Email プロトコル・サーバー管理画面の一部が表示されない場合や、値の入力ができない場合があります。この問題はブラウザの言語設定を「英語」にすれば回避できます。

## メッセージのフォルダ間移動について

本リリースの Oracle Email Web インタフェースでは、メッセージのフォルダ間移動ができません。

## Oracle Files

ここでは、以下の項目について説明します。

- レビュー・プロセス機能について
- SMTP サーバーの指定について
- Oracle Files 起動 / 停止の制限について
- OID からプロビジョニングされる Oracle Files ユーザーについて
- Web ユーザー・インタフェース以外のプロトコルでログインできない場合について
- アーカイブ・ファイルの格納に BFILE を使用する場合の注意事項
- Oracle Files Web インタフェースでの日付フォーマットのヒントについて
- Web ブラウザのステータス・バーにおける文字化けについて
- Netscape Navigator での制限事項
- メール送信機能の制限
- 自動送信メールの DATE ヘッダについて
- クォータ追加要求メールの内容について
- ファイル圧縮 / 解凍機能の制限について
- ドキュメントの訂正と補足
- Files ポートレットの制限について
- クォータ残量に関係なくコピーできる問題

### レビュー・プロセス機能について

本リリースでは、レビュー・プロセス（Oracle Workflow 連携）機能はサポート対象外です。

### SMTP サーバーの指定について

Oracle Files からの電子メール送信を行うため、Oracle Files Configuration Assistant 実行時に、SMTP サーバーを指定する必要があります。

指定した SMTP サーバーが無効または停止している場合、ワークスペースの作成やクォータ追加要求などの操作時にエラーが発生します。

また、本リリースでは SMTP サーバーのポート番号は標準の 25 である必要があります。25 以外のポートを使用する SMTP サーバーは利用できません。

### Oracle Files 起動 / 停止の制限について

Oracle9iAS Infrastructure と Oracle Collaboration Suite Middle-Tier を同一マシンにインストールした場合、Oracle Enterprise Manager Web Site から Oracle Files ドメインおよび各ノードの起動 / 停止を行うことはできません。

### OID からプロビジョニングされる Oracle Files ユーザーについて

FilesOidUserSynchronizationAgent は、OID サブスクライバ内のすべてのユーザー・エントリを Oracle Files にプロビジョニングします。このため、Oracle Files 上には他のコンポーネントの管理者ユーザー（orcladmin や PORTAL など）も作成されます。これらのユーザーを利用しない場合は、サブスクライバ管理者で Web インタフェースにログインし、ユーザーを無効化してください。

## Web ユーザー・インタフェース以外のプロトコルでログインできない場合について

次に示す URL にアクセスし、シングル・サインオン・パスワードならびに必要な応じて Files 固有パスワードの入力を行ってください。

`http://<Middle-Tier ホスト名>:<ポート番号>/files/app/ProtocolAccess`

## アーカイブ・ファイルの格納に BFILE を使用する際の注意事項

- Web インタフェースの検索結果画面から BFILE にアーカイブされたファイルを BLOB に戻す（リストア）する場合、「コピー」と「移動」では内部動作は次のように異なります。  
  
コピーを実行した場合：ファイルの実体を BFILE から BLOB に即座にコピーします。  
  
移動を実行した場合：ファイルに変更が加えられた時に、実体を BFILE から BLOB にコピーします。
- アーカイブ・ファイルを BFILE にエージングする場合、ファイルが Oracle Text により索引付けされる前に BFILE に変換された場合は全文検索対象にすることはできません。
- アーカイブ・ファイルに対する「ページ」操作では、BFILE 変換されたファイルの実体は削除されません。

## Oracle Files Web インタフェースでの日付フォーマットのヒントについて

Web インタフェース上で日付フォーマットが "aa/nn/jj" と表示される部分がありますが、ユーザー・プロフィールの言語設定を日本語に設定している場合、"yy/mm/dd" の誤りです。

## Web ブラウザのステータス・バーにおける文字化けについて

Web インタフェースでファイル名に日本語が含まれたファイルをマウスでポイントした際、ブラウザのステータス・バーに表示されるファイル名が文字化けします。これは UTF-8 文字コードの文字列を正しく表示できないというブラウザ側の問題であり、Oracle Files の動作には影響ありません。

## Netscape Navigator での制限事項

- 日本語文字列が正しく表示されない場合があります。この場合、次のように設定を変更することで解消されます。
  1. 「編集」メニューから「設定」を選択します。
  2. カテゴリ欄の「表示」ツリーから「フォント」を選択します。
  3. 右側の設定項目で「ドキュメント指定のフォントを無視して、設定したフォントを使用」を選択します。
  4. 「OK」をクリックして設定を保存し、再度アクセスします。
- Netscape Navigator では、ポインティング・デバイスをボタンやアイコン上に移動した時に表示されるバールーン・ヘルプ内の日本語文字列が正しく表示されないことがあります。
- Netscape Navigator では、表示結果の並べ替えを正しく行えない場合があります。
- Netscape Navigator では、一部のテキストボックスにマルチバイト文字を入力することができません。
- Netscape Navigator では、名前にマルチバイト文字を使用したファイルをアップロードできない場合があります。



## メール送信機能の制限

Oracle Files の Web インタフェースのメール送信機能には、以下の制限があります。

- CC に指定したアドレスは処理されません。
- BCC に指定したアドレスは、CC として処理されます。
- マルチバイト文字列をファイル名に含むファイルの URL をメール送信すると、マルチバイト文字列は ASCII 文字列に変換されます。

## 自動送信メールの DATE ヘッダについて

Oracle Files が自動送信するメールには、DATE ヘッダが含まれません。

## クォータ追加要求メールの内容について

サブスクライバ管理者が受信するクォータ追加要求メールに記載されているクォータ・サイズは、追加サイズではなく追加後のサイズです。たとえば、50MB 割り当てられていた所に更に 100MB リクエストすると、サブスクライバ管理者には「ユーザー xxx から、150MB のクォータ追加要求がありました。現在のクォータは 50MB です。」というメールが届きます。

## ファイル圧縮 / 解凍機能の制限について

本リリースの Oracle Files では、ファイル名にマルチバイト文字列が利用されている場合、圧縮 / 解凍機能を利用することはできません。

## ドキュメントの訂正と補足

- 「Oracle Files 管理者ガイド」3 章「Oracle Files のバルク管理ツール」に記載されている XML ファイルには、以下が欠落しています。
  - トップレベルタグ (<users> および <workspaces>)
  - DTD の最後の ” ]> ”
- サブスクライバ管理者のオンライン・ヘルプには「ユーザー作成」の項目がありますが、これはサブスクライバ管理者のタスクではありません。ユーザーの作成は、FilesOidUserSynchronizationAgent が行います。

## Files ポートレットの制限について

Files ポートレットにおいて、マルチバイト文字を使用した検索は動作しません。

## クォータ残量に関係なくコピーできる問題

Web インタフェースや WebDAV プロトコルを介して Oracle Files 上のワークスペース（フォルダ）間でファイル・コピーを行う場合、コピー先のクォータが超過しているにも関わらず、コピーが完了する場合があります。

## Oracle Internet Directory と Oracle Single Sign-on

ここでは、以下の項目について説明します。

- [LDIF ファイル作成時の注意事項](#)
- [Single Sign-on ユーザー情報における画像の登録について](#)
- [DAS からのユーザーの登録・編集についての注意点](#)

### LDIF ファイル作成時の注意事項

LDIF ファイル作成時には、余分な空白が行末に含まないようにしてください。行末に余分な空白が入ったファイルを使用するとエントリのロードに失敗する場合があります。

### Single Sign-on ユーザー情報における画像の登録について

現在のリリースでは、Single Sign-On ユーザーの顔写真データを登録することはできません。Oracle Internet Directory Delegated Administration Service のアップロード機能（ユーザーの編集画面における Photograph フィールド）の使用はサポート対象外です。

### DAS からのユーザーの登録・編集についての注意点

DAS の Internet Directory のユーザーの登録・編集ページにおいて、リソース・アクセス情報の“作成”あるいは“編集”から戻るといくつかの項目がリセットされます。

リソース・アクセス情報の設定を行う際は、ユーザー項目への入力を後に行ってください。

## Oracle HTTP Server

ここでは、以下の項目について説明します。

- [DAD のデフォルト・ページの設定の必要性](#)
- [DAD 設定時ブラウザ画面が空白になる問題について](#)

### DAD のデフォルト・ページの設定の必要性

mod\_plsql の Database Access Descriptor (DAD) の設定でデフォルト・ページ (PlsqlDefaultPage) に値が指定されていない場合、Internet Explorer からデフォルト・ページへアクセスを行うと大量のリクエストがサーバーに送信されます。

この現象を回避するために、デフォルト・ページが不要な場合も、適当なプロシージャ名をデフォルト・ページの値として指定してください。

たとえば page\_not\_found という値を指定します。

Oracle HTTP Server 再起動時にプロセスのメモリー使用量が増加する Oracle HTTP Server の再起動を行うと、httpd (Apache.exe) プロセスのメモリー使用量が増加します。

再起動とは以下の操作を意味します。

- dcmctl コマンド使用時

```
dcmctl restart -i <instance_name> -ct ohs
```

- Oracle Enterprise Manager Web Site からの「再起動」

- a. UNIX プラットフォームの場合：

対象となるプロセスは、httpd の親プロセスおよび子プロセスのすべてとなります。増加のタイミングは再起動時であり、運用中の増加は本現象には該当しません。

- b. Windows プラットフォームの場合：

監視用プロセスとして起動している Apache.exe のメモリー使用量が増加します。restart オプションで再起動されるリクエスト処理用プロセスの Apache.exe のメモリー使用量は増加しません。増加のタイミングは再起動時であり、運用中の増加は本現象には該当しません。

上記問題を回避するには、Oracle HTTP Server を停止した後、起動するようにしてください。

- dcmctl コマンド使用時

```
dcmctl stop -i <instance_name> -ct ohs
dcmctl start -i <instance_name> -ct ohs
```

- Oracle Enterprise Manager Web Site で「停止」。停止を確認した後に「起動」する。

### DAD 設定時ブラウザ画面が空白になる問題について

Internet Explorer を利用して OEM Web Site より DAD の新規作成や既存 DAD の詳細表示を行った場合、ブラウザ上に何も表示されない現象が発生する場合があります。

この問題を回避するためには、以下の対処を行ってください。

1. 現在の dadWiz.jsp をバックアップします。

- a. Unix プラットフォームの場合：

```
cd $ORACLE_HOME/sysman/webapps/emd/ias/oracle_portal
cp -p dadWiz.jsp dadWiz.jsp.original
```

- b. Windows プラットフォームの場合：

(ここでは ORACLE\_HOME が C:\¥Oracle¥ias902 であると仮定します)

```
SET ORACLE_HOME=C:\¥Oracle¥ias902
cd /d %ORACLE_HOME%\¥sysman¥webapps¥emd¥ias¥oracle_portal
copy dadWiz.jsp dadWiz.jsp.original
```

2. dadWiz.jsp を以下のように編集します。

dadWiz.jsp の 25 行目の `<html>` の前に以下の 4 行を追加します。

```
<%
response.setContentType("text/html");
response.setLocale(request.getLocale());
%>
```

dadWiz.jsp は以下のパスに存在します。

- a. Unix プラットフォームの場合：

```
$ORACLE_HOME/sysman/webapps/emd/ias/oracle_portal/dadWiz.jsp
```

- b. Windows プラットフォームの場合：

```
%ORACLE_HOME%\sysman\webapps\emd\ias\oracle_portal\dadWiz.jsp
```

編集例：

変更前

```
(... 略 ...)
<%@ taglib uri="http://xmlns.oracle.com/oem" prefix="oem" %>
<html>
(... 略 ...)
```

変更後

```
(... 略 ...)
<%@ taglib uri="http://xmlns.oracle.com/oem" prefix="oem" %>
<%
response.setContentType("text/html");
response.setLocale(request.getLocale());
%>
<html>
(... 略 ...)
```

---

# Oracle Collaboration Suite リリース・ノート

**原典情報** : B10263-01 Oracle Collaboration Suite Release Notes Release 1, Version 9.0.3.0.1 for Windows

この章の内容は次のとおりです。

- [このマニュアルの目的](#)
- [コンポーネントのリリース・ノート](#)
- [オペレーティング・システム要件](#)
- [インストールの問題](#)
- [管理の問題](#)
- [コンポーネントの問題](#)
- [ドキュメントの誤記](#)

## このマニュアルの目的

このマニュアルでは、Oracle Collaboration Suite リリース 1 (9.0.3.1.0) の機能について補足説明します。内容は次のとおりです。

- Oracle Collaboration Suite の実行に必要なオペレーティング・システムのパッチ
- インストールおよび移行の問題および解決策
- 一般的な管理およびセキュリティの問題および解決策
- マニュアルの更新情報

このマニュアルは、製品の主要なリリース・ノートであるため、次の項に示すコンポーネントのリリース・ノートを読む前に、このマニュアルの内容を確認しておくことをお勧めします。

## コンポーネントのリリース・ノート

固有の Oracle Collaboration Suite コンポーネントの最新情報については、次のコンポーネント固有のリリース・ノートを参照してください。

## オペレーティング・システム要件

ここでは、次の項目について説明します。

- [オペレーティング・システム要件](#)
- [環境変数の設定](#)
- [仮想メモリーのページング・ファイルのサイズ変更](#)

## オペレーティング・システム要件

[表 2-1](#) に、Oracle Collaboration Suite の各インストール用のオペレーティング・システム要件を示します。

**表 2-1 Oracle Collaboration Suite のオペレーティング・システム要件**

要件	値
オペレーティング・システム	Oracle Collaboration Suite および Oracle9iAS Infrastructure: <ul style="list-style-type: none"><li>■ Microsoft Windows NT 4.0 Workstation and Server with Service Pack 6a 以上</li><li>■ Microsoft Windows 2000 Professional and Server with Service Pack 1 以上</li></ul> Oracle Collaboration Suite Information Storage: <ul style="list-style-type: none"><li>■ Microsoft Windows NT 4.0 Workstation and Server with Service Pack 5 以上</li><li>■ Microsoft Windows 2000 Professional and Server with Service Pack 1 以上</li><li>■ Microsoft Windows XP Professional</li></ul>
仮想メモリー	Oracle Collaboration Suite Middle-Tier: <ul style="list-style-type: none"><li>■ 512MB (最小)</li><li>■ 1GB (推奨)</li></ul> Oracle9iAS Infrastructure: <ul style="list-style-type: none"><li>■ 1024MB (最小)</li><li>■ 1GB (推奨)</li></ul> Oracle Collaboration Suite Information Storage: <ul style="list-style-type: none"><li>■ 200MB (最小)</li><li>■ 200MB (最大)</li></ul> <p><b>参照:</b> <a href="#">「仮想メモリーのページング・ファイルのサイズ変更」</a></p>

## 環境変数の設定

Oracle Collaboration Suite または Oracle9iAS Infrastructure をインストールする場合は、TMP または TEMP ディレクトリに 300MB 以上の空き領域があることを確認します。

---

**重要：** 環境変数 ORACLE\_HOME はレジストリに自動的に設定されます。この変数をシステム環境変数として設定しないでください。インストール時にエラーが発生します。

---

Windows NT では、次の手順で TMP または TEMP ディレクトリ・パスを変更します。

1. 「スタート」>「設定」>「コントロール パネル」>「システム」を選択します。
2. 「環境」タブを選択します。
3. 「*username* のユーザー環境変数」リスト・ボックスから TMP または TEMP 変数を選択します。
4. 「変数」フィールドを、300MB 以上の空き領域を持つディレクトリに変更します。
5. 「設定」をクリックします。
6. 「OK」をクリックします。

Windows 2000 では、次の手順で TMP または TEMP ディレクトリ・パスを変更します。

1. 「スタート」>「設定」>「コントロール パネル」>「システム」を選択します。
2. 「詳細」タブを選択します。
3. 「環境変数」をクリックします。
4. 「*username* のユーザー環境変数」リスト・ボックスから TMP または TEMP 変数を選択します。
5. 「編集」をクリックします。
6. 「変数値」フィールドを、300MB 以上の空き領域を持つディレクトリに変更します。
7. システム・プロパティが終了するまで「OK」をクリックします。
8. 「OK」をクリックします。

## 仮想メモリのページング・ファイルのサイズ変更

Windows NT では、次の手順で仮想メモリー量を変更します。

1. 「スタート」>「設定」>「コントロール パネル」>「システム」を選択します。
2. 「パフォーマンス」タブを選択します。
3. 「変更」をクリックします。
4. 適切なドライブを選択して、「初期サイズ (MB)」フィールドに新しい値を入力します。
5. 「設定」をクリックします。
6. システム・プロパティが終了するまで「OK」をクリックします。

Windows 2000 では、次の手順で仮想メモリー量を変更します。

1. 「スタート」>「設定」>「コントロール パネル」>「システム」を選択します。
2. 「詳細」タブを選択します。
3. 「パフォーマンス オプション」をクリックします。
4. 「変更」をクリックします。
5. 適切なドライブを選択して、「初期サイズ (MB)」フィールドに新しい値を入力します。
6. 「設定」をクリックします。
7. システム・プロパティが終了するまで「OK」をクリックします。

## インストールの問題

この章では、インストールの問題およびそれらの解決策について説明します。この章の内容は次のとおりです。

- [インストールの問題](#)
- [インストール後の問題](#)

## インストールの問題

この項では、次のインストールの問題について説明します。

- [インストールの順序](#)
- [Windows プラットフォームでの Oracle Email 用の必須パッチ](#)
- [JRE 1.3.1 パス](#)
- [Oracle Internet Directory Server ポート](#)
- [ドメイン名の制限（先頭はアルファベット文字）](#)

### インストールの順序

エラーを回避するため、Oracle Collaboration Suite は次の順でインストールすることをお勧めします。

- Infrastructure
- Information Storage
- Middle-Tier

---

---

**注意：** 同じコンピュータに Infrastructure および Information Storage をインストールする場合は、最初に Information Storage をインストールしてください。

---

---

### Windows プラットフォームでの Oracle Email 用の必須パッチ

Oracle Email を Windows プラットフォームで実行する必要がある場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターから必須パッチを入手してください。

**参照：** Bug#2588265 を参照してください。

### JRE 1.3.1 パス

JRE 1.3.1 パスは、JRE 1.1.8 パスより前に設定する必要があります。

### Oracle Internet Directory Server ポート

Oracle Internet Directory リリース 9.0.2 から Oracle Collaboration Suite リリース 1 (9.0.3.1.0) にアップグレードする場合は、次のタスクを実行します。

1. Oracle Internet Directory Server が %ORACLE\_HOME%\%config%\ias.properties ファイルの OIDport プロパティに指定された非 SSL ポートと同じポートで実行されているかどうかを確認します。
2. ポートが異なる場合は、ias.properties ファイルの OIDport の値を正しいポート値に変更します。

このポートの問題は、Oracle Internet Directory が、Oracle Collaboration Suite にアップグレードされる前に、リリース 9.0.2 より前からリリース 9.0.2 にアップグレードされている場合に発生する可能性があります。



## ドメイン名の制限（先頭はアルファベット文字）

マシン名の先頭文字にアルファベット文字ではなく数字が使用されているマシンに Oracle9iAS Infrastructure をインストールすると、次のエラーが発生し、インストールが失敗します。

Invalid database domain name. The database domain name must start with an alphabetical character.

Oracle9iAS Infrastructure を使用して作成されたデータベースには、完全に修飾されたホスト名と同じ名前が自動的に割り当てられます。ただし、データベース名はアルファベット文字で始まる必要があります。完全に修飾されたホスト名の一部であるマシン名の先頭文字が、数字など、アルファベット文字以外であるため、前述のエラー・メッセージが表示されます。この問題を解決するには、完全に修飾されたホスト名の一部であるマシン名の先頭文字を、必ずアルファベット文字にしてください。

## インストール後の問題

この項では、次のインストール後の問題について説明します。

- [元の Java Authentication and Java Authorization Services のレルムの削除](#)
- [Oracle Internet Directory の oidstats.bat スクリプトの実行](#)
- [Oracle スキーマの作成時に NetCA で発生するエラー（ユーザーの DN およびパスワードを入力するためのプロンプトの非表示）](#)

### 元の Java Authentication and Java Authorization Services のレルムの削除

Oracle Internet Directory のインストールが完了した後、Oracle Internet Directory のデフォルトのサブスクライバを変更する場合は、元の Java Authentication and Authorization Services のレルムを削除する必要があります。

たとえば、デフォルトのサブスクライバが Oracle Internet Directory のインストール時に `dc=us,dc=acme,dc=com` に構成され、インストール後に `dc=acme,dc=com` に変更された場合です。Oracle Internet Directory に 2 つの Java Authentication and Authorization Services のレルム（`us` と `acme`）が存在するため、この Oracle Internet Directory を指す後続の Oracle9i Application Server のインストールは、Java Authentication and Authorization Services がデフォルトのレルムを認識できないために失敗します。

Java Authentication and Authorization Services がデフォルトのレルムを認識できるようにするには、Oracle Internet Directory から元の Java Authentication and Authorization Services のレルムを削除する必要があります。

Oracle Internet Directory から元の Java Authentication and Authorization Services のレルムを削除するには、次の手順を実行します。

レルム・コンテナの DN は次のとおりです。

```
cn=Realms,cn=JAZNContext,cn=Products,cn=OracleContext
```

このコンテナ内の次のエントリを削除します。

```
cn=us
```

この Oracle Internet Directory に対する後続のすべてのインストールが正常に実行されます。

### Oracle Internet Directory の oidstats.bat スクリプトの実行

新規インストールの最後に、ディレクトリ・サーバーのパフォーマンスを改善するために、oidstats.bat スクリプトを実行することをお勧めします。構文は次のとおりです。

```
%ORACLE_HOME%\ldap\admin\oidstats.bat -connect Net_service_name -all -pct Percent_of_Data_to_sample
```

`Percent_of_Data_to_sample` は、100 などに設定できます。

アップグレードでサーバーのパフォーマンスが低下した場合、oidstats.bat ツールを実行する必要があります。

---

**注意：** oidstats.bat スクリプトの実行時間は、ディレクトリのサイズによって異なります。たとえば、100,000 のエントリを含むディレクトリの場合、スクリプトの完了には数時間かかります。

---

## Oracle スキーマの作成時に NetCA で発生するエラー（ユーザーの DN およびパスワードを入力するためのプロンプトの非表示）

NetCA を起動してディレクトリを構成すると、エラーが発生する場合があります。

たとえば、次の手順を実行すると想定します。

1. NetCA を起動します。
2. 「ディレクトリ使用構成」を選択します。
3. 「次へ」をクリックします。
4. 2 つ目のオプション「使用するディレクトリ・サーバーを選択してください。ディレクトリ・サーバーの Oracle を使用するための構成がされている必要があります。」を選択します。
5. 「終了」をクリックします。
6. 「Oracle Internet Directory」を選択し、「次へ」をクリックします。
7. ホスト名およびポート番号を入力します。
8. 「次へ」をクリックします。

「ディレクトリ使用構成－ Oracle スキーマ以外」というタイトルの次のページで、次のメッセージが表示されます。

ディレクトリには必要な Oracle スキーマが含まれていません。正しい Oracle スキーマがないと、ディレクトリ使用構成を継続できません。ディレクトリ・スキーマを作成する権限がある場合は、必要な Oracle スキーマをすぐに追加できます。必要な Oracle スキーマをディレクトリに追加しますか？

9. 「必要な Oracle スキーマを追加する。実行に必要な権限がある。」オプションを選択します。  
「次へ」をクリックします。

次のウィンドウで、次のメッセージが表示されます。

Oracle Schema Creation Complete

このとき、ユーザーの DN およびパスワードを入力するためのウィンドウが表示されません。

この問題を解決するには、Bug#2190328 用のパッチを適用してください。

## 管理の問題

この章では、Oracle Collaboration Suite に関連する管理の問題について説明します。この章の内容は次のとおりです。

- [Search](#)
- [グローバリゼーション](#)
- [Oracle Internet Directory](#)
- [Mod\\_osso](#)

## Search

Oracle Collaboration Suite の検索に関連する問題は次のとおりです。

- [複数検索は同時が実行されない](#)
- [Oracle Email または Web ページの検索時に検索がタイムアウトしない](#)
- [検索構成が UltraSearchFilePath および UltraSearchTablePagePath をサポートしない](#)

### 複数検索は同時が実行されない

複数の検索を一度に実行した場合、検索は同時には実行されず、逐次実行されます。最初の検索が完了するまで、2 つ目の検索の結果が表示されません。

### Oracle Email または Web ページの検索時に検索がタイムアウトしない

検索条件が複数の結果を戻す場合、Oracle Email または Web サイトの検索が完了するまでに、非常に長い時間がかかる可能性があります。この場合、検索はタイムアウトしません。その後どのような操作を実行しても、完了するまで検索は続行されます。これによって、データベース・サーバーで貴重な CPU タイムが消費される可能性があります。

### 検索構成が UltraSearchFilePath および UltraSearchTablePagePath をサポートしない

Oracle Collaboration Suite の Web 検索コンポーネントは、Oracle Ultra Search によってクロール済の Web サイトを検索するためのみに構成されています。このコンポーネントは、Oracle Ultra Search によってクロールされた他のリポジトリ（汎用データベース表、Oracle Portal、電子メール・リポジトリなど）を検索するようには構成されていません。ただし、Oracle Collaboration Suite の検索は Oracle Email を検索します。

## グローバリゼーション

グローバリゼーションに関連する問題は次のとおりです。

- [多言語サポート](#)
- [多言語配置](#)

### 多言語サポート

Oracle Collaboration Suite のユーザー・インタフェースは、英語、ポルトガル語（ブラジル）、フランス語、ドイツ語、イタリア語、日本語、韓国語、簡体字中国語および繁体字中国語で使用できます。

**参照：** 多言語サポートのインストールについては、『Oracle Collaboration Suite for Windows インストレーション・ガイド』を参照してください。

## 多言語配置

Oracle Collaboration Suite の多言語サポートを配置するには、次の手順を実行します。

### Infrastructure

1. Single Sign-On 言語変換および Portal 翻訳済リソースをインストールする前に、環境変数 %oracle\_home% を設定します。

```
%ORACLE_HOME%\jdk\bin\java -jar
%ORACLE_HOME%\sso\lib\ossoca.jar langinst d 1 %ORACLE_HOME%
```

2. インストール開始時に、すべての翻訳済リソースをインストールします。

```
setupNLS.bat
```

3. インストール中に、UTF8 を Infrastructure のデータベース・キャラクタ・セットとして選択します。

4. インストール後に、Single Sign-On 言語変換を使用可能にします。

```
%ORACLE_HOME%\jdk\bin\java -jar ORACLE_HOME\sso\lib\ossoca.jar langinst d 1
%ORACLE_HOME%
%ORACLE_HOME%\jdk\bin\java -jar ORACLE_HOME\sso\lib\ossoca.jar langinst e 1
%ORACLE_HOME%
%ORACLE_HOME%\jdk\bin\java -jar ORACLE_HOME\sso\lib\ossoca.jar langinst f 1
%ORACLE_HOME%
%ORACLE_HOME%\jdk\bin\java -jar ORACLE_HOME\sso\lib\ossoca.jar langinst i 1
%ORACLE_HOME%
%ORACLE_HOME%\jdk\bin\java -jar ORACLE_HOME\sso\lib\ossoca.jar langinst ptb 1
%ORACLE_HOME%
%ORACLE_HOME%\jdk\bin\java -jar ORACLE_HOME\sso\lib\ossoca.jar langinst ja 1
%ORACLE_HOME%
%ORACLE_HOME%\jdk\bin\java -jar ORACLE_HOME\sso\lib\ossoca.jar langinst ko 1
%ORACLE_HOME%
%ORACLE_HOME%\jdk\bin\java -jar ORACLE_HOME\sso\lib\ossoca.jar langinst zhs 1
%ORACLE_HOME%
%ORACLE_HOME%\jdk\bin\java -jar ORACLE_HOME\sso\lib\ossoca.jar langinst zht 1
%ORACLE_HOME%
```

### Middle-Tier

1. Single Sign-On 言語変換および Portal 翻訳済リソースをインストールする前に、環境変数 %oracle\_home% を設定します。

```
%ORACLE_HOME%\jdk\bin\java -jar
%ORACLE_HOME%\sso\lib\ossoca.jar langinst d 1 %ORACLE_HOME%
```

2. インストール開始時に、すべての翻訳済リソースをインストールします。

```
setupNLS.bat
```

3. インストール後に、Portal 言語変換を使用可能にします。

```
%ORACLE_HOME%\assistants\opca\ptlasst.bat -mode LANGUAGE -s PORTAL -c
myhost.domain.com:1521:iasdb -lang d -available -silent -m portal -verbose
%ORACLE_HOME%\assistants\opca\ptlasst.bat -mode LANGUAGE -s PORTAL -c
myhost.domain.com:1521:iasdb -lang e -available -silent -m portal -verbose
%ORACLE_HOME%\assistants\opca\ptlasst.bat -mode LANGUAGE -s PORTAL -c
myhost.domain.com:1521:iasdb -lang f -available -silent -m portal -verbose
%ORACLE_HOME%\assistants\opca\ptlasst.bat -mode LANGUAGE -s PORTAL -c
myhost.domain.com:1521:iasdb -lang i -available -silent -m portal -verbose
%ORACLE_HOME%\assistants\opca\ptlasst.bat -mode LANGUAGE -s PORTAL -c
myhost.domain.com:1521:iasdb -lang ptb -available -silent -m portal -verbose
%ORACLE_HOME%\assistants\opca\ptlasst.bat -mode LANGUAGE -s PORTAL -c
myhost.domain.com:1521:iasdb -lang ja -available -silent -m portal -verbose
%ORACLE_HOME%\assistants\opca\ptlasst.bat -mode LANGUAGE -s PORTAL -c
myhost.domain.com:1521:iasdb -lang ko -available -silent -m portal -verbose
%ORACLE_HOME%\assistants\opca\ptlasst.bat -mode LANGUAGE -s PORTAL -c
myhost.domain.com:1521:iasdb -lang zhs -available -silent -m portal -verbose
```

```
%ORACLE_HOME%\assistants\opca\ptlasst.bat -mode LANGUAGE -s PORTAL -c
myhost.domain.com:1521:iasdb -lang zht -available -silent -m portal -verbose
```

Portal スキーマ・パスワードを入力するプロンプトが表示されます。Portal スキーマ・パスワードは、Oracle Portal スキーマの次の識別名を使用して、Oracle Internet Directory から取得できます。

```
OrclResourceName=portal_user,orclReferenceName=sid.myhost.domain.com,cn=IAS
InfrastructureDatabases,cn=IAS,
cn=Products,cn=OracleContext
```

myhost.domain.com:1521:iasdb は、Infrastructure データベースへの接続文字列を指定します。このフォーマットは、ホスト名:ポート:システム識別子 (SID) である必要があります。

### Information Storage

1. インストール開始時に、すべての翻訳済みリソースをインストールします。

```
setupNLS.bat
```

2. Oracle Files または Oracle Email のデフォルトのストレージ・データベースを使用するか、または UTF8 キャラクタ・セットでカスタム・データベースを作成します。

---

**注意：** 今回のリリースでは、AL32UTF8 はサポートされていません。

---

## Oracle Internet Directory

---

**注意：** Oracle Collaboration Suite の今回のリリースの Oracle Internet Directory のバージョンはリリース 9.0.2.2 です。

---

Oracle Internet Directory に関連する問題は次のとおりです。

- [Oracle Internet Directory Server が正常に実行されない](#)

### Oracle Internet Directory Server が正常に実行されない

Oracle Internet Directory Server は、負荷が非常に高い場合に、正常に実行されない場合があります。この問題を解決するには、Bug#2514005 用の RDBMS パッチを適用してください。

**参照：** 詳細は、Oracle Internet Directory リリース 9.0.2.2 の README を参照してください。

## Mod\_osso

Mod\_osso に関連する問題は次のとおりです。

- [mod\\_osso に対する IP チェックの有効化](#)

### mod\_osso に対する IP チェックの有効化

mod\_osso は、ディレクティブ OsoIPCheck を使用して、Single Sign-On Server を認証するユーザーが mod\_osso 保護されたアプリケーションにアクセスしているユーザーと同じであることを確認します。

IP チェック用に mod\_osso を有効にするには、httpd.conf ファイルのディレクティブ OsoIPCheck をオンに設定します。ただし、プロキシ・サーバーを使用しなくても、ブラウザから Single Sign-On Server と HTTP Server の両方にアクセスできる場合にのみ、OsoIPCheck を有効にする必要があります。プロキシを使用してディレクティブ OsoIPCheck を有効にすると、エラー・メッセージが表示される場合があります。これは、プロキシで静的な IP アドレスが使用されないためです。Oracle9iAS リリース 9.0.4 では、ディレクティブのデフォルト設定はオフです。

1. OPMN を停止します。

```
$MIDTIER_ORACLE_HOME/opmn/bin/opmnctl stopall
```

2. \$MIDTIER\_ORACLE\_HOME/Apache/Apache/conf/mod\_osso.conf ファイルを変更します。
3. OssoIPCheck を無効にします。

---

**注意：** この場合の ORACLE\_HOME は Middle-Tier の ORACLE\_HOME です。

---

4. OPMN を再起動します。

```
$MIDTIER_ORACLE_HOME/opmn/bin/opmnctl startall
```

---

**注意：** コマンドラインではなく、Oracle Enterprise Manager (http://hostname.domain:1810/) を使用して HTTP Server を停止してください。

---

## コンポーネントの問題

この章では、Oracle Collaboration Suite に関連するコンポーネントの問題について説明します。この章の内容は次のとおりです。

- [Oracle Email の問題](#)
- [Oracle Files の問題](#)

### Oracle Email の問題

Oracle Email に関連する問題は次のとおりです。

- [Oracle Email 用データベースの作成](#)
- [Oracle WebMail の「作業環境」ページでの変更が有効にならない](#)

#### Oracle Email 用データベースの作成

Oracle Email データベースを構成する前に、Oracle Internet Directory の電子メール・データベースのグローバル名が正しいことを確認します。

次の手順を実行して、Oracle Internet Directory の Oracle Email データベースのグローバル名を確認します。

1. 電子メール・データベースにログインします。
2. 次の問合せを作成して、結果を書き留めます。

```
Select * from global_name
```

3. Oracle Internet Directory Manager を実行します。
4. ルートの OracleContext にナビゲートします。

```
cn=OracleContext
```

5. データベースのプロパティを確認します。

```
cn = SID_of_the_database
```

orcldbglobalname 属性の値は、手順 2 で作成した問合せの結果と同じである必要があります。値が異なる場合は、問合せの結果と一致するように、orcldbglobalname の値を変更します。

#### Oracle WebMail の「作業環境」ページでの変更が有効にならない

Oracle WebMail の「作業環境」ページで行った変更は、ユーザーがログオフして、再度ログインするまで有効になりません。

この問題を解決するには、オラクル社カスタマ・サポート・センターから Mini Patch 5 を入手する必要があります。

**参照：** Bug#27275783 を参照してください。

### Oracle Files の問題

Oracle Files に関連する問題は次のとおりです。

- [Oracle Internet Directory](#) でのニックネームとしての電子メール・アドレスの使用
- [ユーザーと Oracle Internet Directory](#) の同期化
- [Oracle Files](#) ポートレットおよび [OCS Search](#) ポートレットからマルチバイトの名前を持つファイルやフォルダを検索できない
- [Netscape 4.7](#) を使用して、マルチバイトのファイル名を持つファイルを [Oracle Files](#) にアップロードできない
- [Netscape 4.7](#) では、[Oracle Files](#) にマルチバイトのフォルダを作成できない
- ユーザー名にマルチバイト・キャラクタおよびアンダースコアを含む [Oracle Files](#) にログインできない

- **Oracle Enterprise Manager で Oracle Files ターゲットが表示されない**

## **Oracle Internet Directory でのニックネームとしての電子メール・アドレスの使用**

Oracle Internet Directory が電子メール・アドレスをニックネームとして使用するよう構成されている場合、Oracle Files のユーザーは、Web フォルダを使用して Oracle Files にアクセスすることができません。

この問題を解決するには、Common Name (CN) 属性を OrclCommonNicknameAttribute として使用するよう Oracle Internet Directory を構成してください。

## **ユーザーと Oracle Internet Directory の同期化**

Oracle Files の FilesOIDUserSynchronizationAgent パラメータは、Oracle Internet Directory を問い合わせることによって、新しい Oracle Internet Directory ユーザーと Oracle Files を同期化します。Oracle Internet Directory の Query Entry Return Limit パラメータがサブスクライバ内のユーザーの合計数より小さい数値に設定されている場合、このエージェントは正常に実行されません。

この問題を解決するには、Query Entry Return Limit パラメータをユーザー数より大きい値に設定してください。

## **Oracle Files ポートレットおよび OCS Search ポートレットからマルチバイトの名前を持つファイルやフォルダを検索できない**

ユーザーは、Oracle Files ポートレットおよび Oracle Collaboration Suite Search ポートレットから、名前にマルチバイト・キャラクタを含むファイルやフォルダを検索できません。

エンド・ユーザーは、Oracle Files アプリケーションまたは Oracle Collaboration Suite Search アプリケーションに直接移動して、正常に検索を行うことができます。

## **Netscape 4.7 を使用して、マルチバイトのファイル名を持つファイルを Oracle Files にアップロードできない**

ユーザーは、Netscape 4.7 ブラウザ・インタフェースを使用して、名前にマルチバイト・キャラクタを含むファイルを Oracle Files にアップロードできません。

この問題を解決するには、Microsoft Internet Explorer 5 以上を使用してください。

## **Netscape 4.7 では、Oracle Files にマルチバイトのフォルダを作成できない**

エンド・ユーザーは、Oracle Files での新しいフォルダの作成時、フォルダ名フィールドにマルチバイト・キャラクタを入力できません。

この問題を解決するには、Microsoft Internet Explorer 5 以上を使用してください。

## **ユーザー名にマルチバイト・キャラクタおよびアンダースコアを含む Oracle Files にログインできない**

ユーザー名にマルチバイト・キャラクタおよびアンダースコアの両方が含まれる場合、ユーザーは Oracle Files にログインできません。

ユーザー名にマルチバイト・キャラクタを含める必要がある場合は、同時にアンダースコアを使用しないでください。また、ユーザー名にアンダースコアを含める必要がある場合は、同時にマルチバイト・キャラクタを使用しないでください。

## **Oracle Enterprise Manager で Oracle Files ターゲットが表示されない**

Oracle Files をインストールして構成した後、Oracle Files ターゲットが不明になる場合があります。これは、targets.xml ファイルが、Oracle Enterprise Manager インタフェースにターゲットを含めないためです。host name:1810 を使用して Oracle Enterprise Manager Web Site にログインすると、Oracle Files ターゲットが不明になる場合があります。

この問題を修正するには、Middle-Tier から Oracle Enterprise Manager を再起動するか、Oracle Enterprise Manager を停止して、Oracle Files Configuration Assistant を再実行してください。

次の手順を実行して、Oracle Enterprise Manager を再起動します。



1. Windows NT では、「スタート」>「設定」>「コントロールパネル」を選択します。  
Windows 2000 または XP では、「スタート」>「設定」>「コントロールパネル」>「管理ツール」を選択します。
2. 「サービス」を選択します。
3. 「OracleOCSmtierEMWebsite」を選択します。
4. 「停止」をクリックします。
5. 「開始」をクリックします。
6. ias\_admin として Oracle Enterprise Manager にログインします。
7. Middle-Tier ホストを選択します。インスタンスで実行中のすべてのシステム・コンポーネント (Oracle Files ドメインを含む) を表示するページが表示されます。Oracle Files ドメインが表示されない場合は、Oracle Enterprise Manager を停止して、ifscs スクリプトを再実行してください。

Enterprise Manager を停止または起動する場合は、「サービス」ダイアログ・ボックスを使用して、OracleOCSmtierEMWebsite を停止または起動します。

Oracle Files Configuration Assistant を実行するには、次のように入力します。

```
%ORACLE_HOME%\ifs\files\bin\ifscs.bat
```

## ドキュメントの誤記

この章では、次のドキュメントの誤記について説明します。

- 『Oracle Collaboration Suite for Windows インストール・ガイド』
- 『Oracle Collaboration Suite 管理者ガイド』
- 『Oracle9iAS Single Sign-On 管理者ガイド』
- 『Oracle Email 管理者ガイド』

## 『Oracle Collaboration Suite for Windows インストール・ガイド』

この項では、『Oracle Collaboration Suite for Windows インストール・ガイド』の誤記について説明します。

### ストア名が不正確

『Oracle Collaboration Suite for Windows インストール・ガイド』では、Unified Messaging Store が誤って Oracle Email Store と記載されています。

## 『Oracle Collaboration Suite 管理者ガイド』

この項では、『Oracle Collaboration Suite 管理者ガイド』の誤記について説明します。

### 環境変数 NLS\_LANG の元の値へのリセット

『Oracle Collaboration Suite 管理者ガイド』では、手順 4 を実行する前に環境変数 NLS\_LANG の設定を解除すると記載されています。実際は、手順 4 を実行した後、環境変数 NLS\_LANG を元の値にリセットします。

## 『Oracle9iAS Single Sign-On 管理者ガイド』

この項では、『Oracle9iAS Single Sign-On 管理者ガイド』の誤記について説明します。

### National Language Support の構成

『Oracle9iAS Single Sign-On 管理者ガイド』の第 2 章の「National Language Support の設定」では、ユーザーは、Oracle9iAS のインストール時に言語を選択できると記載されています。言語は、Oracle9iAS のインストール後に管理者がその言語をインストールした場合にのみ使用可能であることに注意してください。29 か国語からの言語選択を許可できるように設定できます。デフォルトでインストールされる言語は、英語のみです。追加の言語をインストールするには、次のコマンドを実行します。

```
%ORACLE_HOME%\jdk\bin\java -jar %ORACLE_HOME%\sso\lib\ossoca.jar langinst lang make_lang_avail  
%ORACLE_HOME%
```

変数 lang には、インストールする言語のコードを代入します。言語を使用可能に設定する場合は、変数 make\_lang\_avail に、1 を代入します。言語を使用不可に設定する場合は、0 (ゼロ) を代入します。

**参照：** サポートされている言語の完全なリストについては、『Oracle9i Application Server グローバリゼーション・サポート・ガイド』の表 3-2 を参照してください。

## 『Oracle Email 管理者ガイド』

- [oescctl コマンドを使用したプロセスの開始および停止](#)
- [メール・ストアのリスナーの検証および起動](#)

### oescctl コマンドを使用したプロセスの開始および停止

oescctl startup コマンドは、ターゲットまたはインスタンスに関連付けられた個別のプロセスのみを開始します。ターゲットまたはインスタンスに関連付けられたすべてのプロセスを開始することはできません。

oescctl shutdown コマンドは、ターゲットまたはインスタンスに関連付けられた個別のプロセスのみを停止します。ターゲットまたはインスタンスに関連付けられたすべてのプロセスを停止することはできません。

### メール・ストアのリスナーの検証および起動

システムが Oracle Collaboration Suite システムとクライアントからデータベース接続を確立できるように、メール・ストア・データベースで Oracle Net のリスナーを実行している必要があります。

リスナーが実行されていることを確認するには、次のコマンドを入力します。

- UNIX の場合：

```
% lsnrctl status
```

- Windows の場合：

コマンド・プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
lsnrctl status
```

no listener という行を含むメッセージが戻された場合は、リスナーを起動する必要があります。

リスナーを起動するには、次のコマンドを入力します。

- UNIX の場合：

```
% lsnrctl startup
```

- Windows の場合：

コマンド・プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
lsnrctl startup
```

**参照：** リスナーの起動の詳細は、『Oracle9i Net Services 管理者ガイド』を参照してください。



---

# Oracle Collaboration Suite リリース・ノート 追加情報 1

原典情報 : B10244-01 Oracle Collaboration Suite Release Notes Addendum Release 1, Version 9.0.3

ここでは、Oracle Collaboration Suite の機能について補足説明します。内容は、この章では、以下の項目について説明します。

- [インストールの問題](#)
- [コンポーネントの問題](#)

## インストールの問題

インストールの問題点および解決方法について説明します。

必要な CD を 1 通り実行した場合でも、Oracle9iAS Infrastructure および Oracle Collaboration Suite Middle-Tier のインストール終了時に、ディスク 1 およびディスク 2 を再度挿入するように求められる場合があります。これは所定の動作です。

この問題の解決方法については、『Oracle Collaboration Suite for HP 9000 Series HP-UX, Linux Intel, and Solaris Operating System (SPARC) インストレーション・ガイド』の第 4 章「インストール・スタート・ガイド」の「ハード・ドライブからの Oracle コンポーネントのインストール」を参照してください。

## コンポーネントの問題

コンポーネントの問題点および解決方法について説明します。

- [Oracle Email](#)
- [Oracle Files](#)

## Oracle Email

### Oracle Enterprise Manager での Oracle Email 用オンライン・ヘルプについて

Oracle Enterprise Manager では、Oracle Email 管理ページ用のオンライン・ヘルプはありません。

### 標準 Fat クライアントを使用したパブリック電子メール配信リスト検索機能について

標準 Fat クライアント（Netscape Communicator など）を使用して、パブリック電子メール配信リストを検索できません。

解決方法：

1. 電子メール・リスト・コンテナのサブスクライバ・ベースから LDAP 参照を作成します。

```
ldapmodify -c -v -a -D"cn=orcladmin" -w password -h ldaphost -p
ldap port <<EOF
dn: cn=Lists,dc=oracle,dc=com
cn: Lists
ref:
ldap://
host:port/cn=List,dc=oracle,dc=com,cn=UM_
SYSTEM,cn=EMailServerContainer,cn=Products,cn=OracleContext
objectclass: top
objectclass: referral
objectClass: extensibleObject
EOF
```

2. Oracle Internet Directory の ACI を変更します。

```
ldapmodify -c -v -a -D"cn=orcladmin" -w password -h ldaphost -p
ldap port <<EOF
dn:
cn=List,dc=oracle,dc=com,cn=UM_SYSTEM,cn=EMailServerContainer,cn=Products,
cn=OracleContext
changetype: modify
add: orclaci
orclaci: access to entry by * (browse)
orclaci: access to attr=(mail,cn) by * (read,search)
EOF
```

3. 参照を削除します。

```
ldapdelete -M -h host -p port -D"cn=orcladmin" -w password
cn=Lists,dc=oracle,dc=com
```

#### 4. リスト・コンテナから ACI を削除します。

```
ldapmodify -c -v -a -D"cn=orcladmin" -w password -h ldaphost -p
ldap port <<EOF
dn:
cn=List,dc=oracle,dc=com,cn=UM_SYSTEM,cn=EMailServerContainer,cn=Products,
cn=OracleContext
changetype: modify
delete: orclaci
EOF
```

## Oracle Files

### 一部のボタンについて（Netscape 4.7x 使用時）

Netscape 4.7x の使用時、Oracle Files アプリケーション（表フィルタなど）の一部のボタンは機能しません。

処置：Microsoft Internet Explorer 5.5x 以上を使用してください。

### 電子メール・アドレスが無効な場合に発生するエラー

ユーザーの電子メール・アドレスが無効な場合、ワークスペースにそのユーザーを追加できません。

処置：すべてのユーザーが、有効な電子メール・アドレスを所有していることを確認してください。

### アンダースコア（\_）を含むマルチバイトのユーザー名でのログインの不可

ユーザー名がマルチバイトで、そのユーザー名にアンダースコアが含まれている場合は、Oracle Files にログインできません。

処置：ユーザー名がマルチバイトの場合、そのユーザー名にアンダースコアが含まれていないことを確認してください。

### 単層インストール時に Oracle Enterprise Manager から Oracle Files ドメインを起動した場合に発生するエラー

この問題は、Infrastructure および Middle-Tier の両方の製品が、同じホストにインストールされた場合に発生します。一部の起動スクリプトの位置の解決時に問題が発生するため、Oracle Enterprise Manager から Oracle Files ドメインの起動を試行すると失敗します。

処置：ノードおよびドメインの起動および停止には、Oracle Files のコマンドライン・ツールを使用してください。Oracle Enterprise Manager は、インスタンスの管理には使用できますが、製品の起動および停止には使用できません。Oracle Files のノードおよびドメインを起動および停止するコマンド（ifsctl）は次のディレクトリに格納されています。

```
$ORACLE_HOME/ifs/files/bin
```

コマンドの構文は次のとおりです。

```
ifsctl domain_name
```





---

# Oracle Collaboration Suite リリース・ノート 追加情報 2

原典情報 : B10556\_01 Oracle Collaboration Suite Release Notes Addendum Version 9.0.3

ここでは、Oracle Collaboration Suite の機能について補足説明します。この章では、以下の項目について説明します。

- [コンポーネントの問題](#)
- [ドキュメントの誤記](#)

# コンポーネントの問題

コンポーネントの問題点および解決方法について説明します。

## Oracle Email

### OESUCR コマンド

ユーザーがサーバー・サイド・ルールを持つ場合、oesucr filename -change コマンドは動作しません。

コマンドを有効にするには、oesucr コマンドを実行する前に、Thin Client を使用してサーバー・サイド・ルールを削除し、ユーザーの電子メール ID を変更します。電子メール ID を変更した後、Thin Client によってサーバー・サイド・ルールが再作成されます。

### Thin Client の割当て制限

Thin Client では、あるユーザーが割当て制限を超えた場合、削除されたメッセージをごみ箱フォルダに移動するために作業環境を使用可能にすると、メッセージを削除して割当て制限を下げることはできません。

この問題を解決するには、「作業環境」タブでごみ箱フォルダを使用不可にします。これによって、メッセージに削除済のマークを付け、フォルダを圧縮することによって、メッセージを削除できるようになります。

# ドキュメントの誤記

ドキュメントの誤記について説明します。

## 『Oracle Collaboration Suite for HP 9000 Series HP-UX, Linux Intel, and Solaris Operating System (SPARC) インストレーション・ガイド』

### 不正確なストア名

『Oracle Collaboration Suite for HP 9000 Series HP-UX, Linux Intel, and Solaris Operating System (SPARC) インストレーション・ガイド』で、Unified Messaging Store を誤って Oracle Email Store と表記しています。

### 不正確なデータベース・バージョン

『Oracle Collaboration Suite for HP 9000 Series HP-UX, Linux Intel, and Solaris Operating System (SPARC) インストレーション・ガイド』では、Oracle Files で Oracle9i リリース 1 (9.0.1.1.1) データベースがサポートされていると記載されています。

Oracle Files を Oracle Workflow と統合するには、Oracle9i リリース 2 (9.2.0.1.0) データベースまたは Files Store (Oracle Collaboration Suite Information Storage CD-ROM から使用可能) を使用する必要があります。

### 環境変数の設定および設定解除

『Oracle Collaboration Suite for HP 9000 Series HP-UX, Linux Intel, and Solaris Operating System (SPARC) インストレーション・ガイド』の 2-16 ページの表 2-14 の内容に誤記があります。正しい情報は次のとおりです。

表 4-1

タスク	C シェル	Bourne/Korn シェル
環境変数の設定	prompt> setenv VARIABLE value	prompt> VARIABLE= value;export VARIABLE
環境変数の解除	prompt> unsetenv VARIABLE	prompt> unset VARIABLE

---

# Oracle Email for Windows リリース・ノート

原典情報 : B10362-01 Oracle Email Release Notes Release 9.0.3 for Windows

このマニュアルでは、Oracle Email の最新情報について説明します。

- このリリースでの新機能
- クライアント・ソフトウェア
- 一般的な問題および解決方法
- 構成上の問題および解決方法
- 既知の問題点
- ドキュメントの誤記

## このリリースでの新機能

Oracle Email は、Oracle Collaboration Suite リリース 1 (9.0.3) のコンポーネントとして統合されています。Oracle9i データベース リリース 2 (9.2) をメッセージ・ストアとして使用することが認証済です。

このリリースには、次の新機能が含まれています。

- 拡張管理  
Oracle Email は、グラフおよびサービス・プロバイダ機能の監視 (1 ステップでのユーザー・プロビジョニングなど) を提供します。
- 拡張ウィルス・スキャン  
Oracle Email サーバーには、拡張されたウィルス対策およびスパム対策機能が含まれています。
- 拡張サーバー側ルール  
このリリースでは、SMS 通知のみでなく、ドメインおよびシステム全体でルールが使用可能です。
- 拡張ワイヤレス機能  
Oracle Email ユーザーは、ユーザー自身の電子メールへのワイヤレス・アクセス専用、プロフィールおよびフィルタを設定できます。
- 電子メール・ポートレット  
Oracle Email ユーザーは、ポータル・ページからメールボックスを参照できます。

## クライアント・ソフトウェア

標準の POP/IMAP/SMTP プロトコル仕様に準拠の E-Mail クライアント・ソフトウェアならびに標準の Web ブラウザ。オラクル社にて動作確認済みソフトウェアは次のとおりです。

対応クライアント・ソフトウェアに関する最新情報は、日本オラクルのホームページの製品情報ページにあるシステム要件を参照してください。

- Outlook 2002
- Outlook Express 6.0
- Outlook Express 5.x
- Netscape 4.7.x for Windows
- Internet Explorer 5.5 (SP2) for Windows

## 一般的な問題および解決方法

この項では、Oracle Email の一般的な問題および解決方法について説明します。

- ユーザーにサーバー・サイド・ルールが適用されている場合、oesucr filename -change コマンドは機能しません。  
  
解決方法: Thin クライアントを使用してサーバー・サイド・ルールを削除してから、oesucr コマンドを実行して、ユーザーの電子メール ID を変更します。電子メール ID を変更すると、サーバー・サイド・ルールが Thin クライアントを使用して再作成されます。
- インターネットへのアウトバウンド配信用に、Windows NT 以外のマシン (Windows 2000 または UNIX) を設定する必要があります。
- 英語以外のロケールで OCS を実行している場合、Webmail ではメッセージの日付が正確に表示されません。

解決方法:

---

---

**注意:** この方法は、自動起動には適用されません。

---

---

1. 「スタート」>「設定」>「コントロールパネル」>「地域」を選択します。
2. 「英語 (U.S.)」を選択します。
3. opmn を使用して OC4J\_UM を再起動します。

- 添付ファイルとして Thin クライアントから転送されたメッセージは、デフォルトでは機能しません。

解決方法：次の手順で、添付ファイル・オプションを選択する必要があります。

1. 「作業環境」>「電子メール」>「メッセージ・オプションの構成」を選択します。
2. 「添付として」を選択します。
3. 「送信」をクリックします。

## 構成上の問題および解決方法

この項では、Oracle Email の構成上の問題および解決方法について説明します。

- [JDBC Bug#2403347 の適用](#)
- [umbackend.zip ファイルの適用](#)
- [重複なしフラグ属性の設定](#)
- [SSL モードでのプロトコル・サーバーの実行](#)
- [複数の電子メール・ドメインを持つ Oracle Email の構成](#)

### JDBC Bug#2403347 の適用

---

---

**注意：** オラクル社カスタマ・サポート・センターから、最新の JDBC パッチをダウンロードしてインストールする必要があります。  
Bug#2403347 を参照してください。

---

---

JDBC Bug#2403347 は、電子メールでのテキスト検索機能の要件です。このエラー修正は、Information Storage のメール・ストアごとに 1 回適用する必要があります。

### umbackend.zip ファイルの適用

Windows 上に Middle-Tier がない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターから umbackend.zip ファイルをダウンロードしてインストールする必要があります。

---

---

**注意：** メール・ストア・データベースを Oracle Email Information Storage CD を使用せずにインストールした場合にのみ適用します。

---

---

1. umbackend.zip ファイルを、Middle-Tier からバックエンド・データベースの Windows マシンにコピーします。
2. umbackend.zip ファイルを解凍します。
3. backend¥Disk1 に移動します。
4. setup.exe を実行します。
5. %ORACLE\_HOME%\%oes¥install¥sql に移動します。
6. ユーザー・システムから install\_infra.sql スクリプトを手動で実行します。
7. 次のパラメータを入力します。
  - 接続文字列
  - mailstore\_oracle\_home
  - es\_mail パスワード

### 重複なしフラグ属性の設定

1. Oracle Internet Directory 管理ツール (oidadmin) を使用して、リスト・サーバーのデフォルト・エントリに移動します。

リスト・サーバー・エントリの DN は次のとおりです。

```
cn=<hostname>:um_system:list,cn=mailProcessConfig,cn=eMailServer,cn  
=<oracle_home>,cn=<hostname>,cn=Computers,cn=OracleContext
```

2. このエントリの `orclmailprocflags` 属性を次のように設定します。

```
-do_duplicate_checks
```

この操作は、リスト・サーバー・プロセスのデフォルト・エントリ、またはリスト・サーバー・インスタンスの各エントリに対して実行する必要があります。

3. リスト・サーバーをリフレッシュします。

## SSL モードでのプロトコル・サーバーの実行

Windows では、Wallet は、作成者であるユーザーのみがその Wallet をオープンできるように保護されています。デフォルトでは、Oracle Net リスナーおよび Oracle Enterprise Manager サービスがローカル・システム・アカウントに関連付けられ、そのアカウントでは Wallet をオープンできません。

次の手順で、listener\_es および Oracle Enterprise Manager サービスを構成します。

1. 「スタート」>「設定」>「コントロール パネル」>「サービス」を選択します。
2. 「OracleHOME\_NAME\_TNSListenerlistener\_es」をダブルクリックします。
3. 「アカウント」をクリックします。デフォルトでは、LocalSystem ユーザー・アカウントがサービスに関連付けられています。
4. 「アカウント」の横にある省略記号 (...) を選択します。「ユーザーの追加」ダイアログ・ボックスが表示されます。
5. Wallet を作成したユーザーを Names リストから選択します。
6. 「追加」をクリックします。
7. 「OK」をクリックします。
8. 「サービス」ダイアログ・ボックスで、Wallet 管理者パスワードを入力して確認します。
9. 「OK」をクリックします。
10. OracleHOME\_NAME\_EEMWebsite サービスに対して手順 3 ～ 8 を繰り返します。

## 複数の電子メール・ドメインを持つ Oracle Email の構成

Oracle Email は、メッセージ・ストアの単一インスタンスで、複数の電子メール・ドメインをサポートします。

新しい電子メール・ドメインを追加するには、次の手順を実行します。

1. Oracle Internet Directory に、新しいサブスクライバ・エントリおよび関連付けられたディレクトリ情報ツリー要素を作成します。

新しいサブスクライバ `objectclass` およびネーミング属性は、ユーザーの要求に応じて構成できます。

---

**注意：** Oracle Email の名前空間に必要な Oracle Internet Directory の各サブスクライバは、電子メール・ドメインと同等のものです。この項では、電子メール・サブスクライバと Oracle Internet Directory サブスクライバを混同しないようにするため、オブジェクト・クラス・ドメインの Oracle Internet Directory サブスクライバをドメインと呼びます。

---

2. Oracle Email に新しい電子メール・ドメインを作成し、電子メール・アクセス用のユーザーをプロビジョニングします。

## Oracle Internet Directory での新しいドメインの作成

ディレクトリ管理者は、次の手順を実行して、Oracle Internet Directory に新しいドメインを作成する必要があります。

1. 配置固有ドメインのデフォルトを判別します。
  - ドメインのネーミング属性 (orclSubscriberNicknameAttribute)
  - ネーミング属性に関連付けられた配置固有のオブジェクト・クラス
  - DIT 内のすべてのドメイン共通の親エントリ (orclSubscriberSearchBase)

この情報は、次のコマンドを使用して、ルート Oracle コンテキストの `cn=common,cn=products,cn=oraclecontext` エントリを問い合わせることによって判別できます。

```
ldapsearch -h <host> -p <port> -s base ¥
-b "cn=common,cn=products,cn=oraclecontext" ¥
"objectclass=*" orclSubscriberSearchBase orclSubscriberNicknameAttribute
```

たとえば、`machine1.acme.com` という DNS 名を持つホスト上のディレクトリの配置に対する送信ボックスのデフォルトは、次のようになります。

```
orclSubscriberSearchBase: dc=com
orclSubscriberNicknameAttribute: dc
```

`dc` というニックネーム属性に基づくと、ここで選択されている配置固有のオブジェクト・クラスはドメインです。

2. `create_subscriber.sh` スクリプトを起動してドメインを作成します。
  - a. Oracle Internet Directory が実行されている Infrastructure の `ORACLE_HOME` にログインします。
  - b. `ORACLE_HOME¥ldap¥schema¥oid` に移動します。
  - c. `create_subscriber.bat` スクリプトを実行します。

たとえば、`machine1.acme.com` という DNS ホスト名を持つホスト上で実行されているディレクトリ・サーバーの送信ボックスのデフォルトを使用して、`NewCompany` と呼ばれるドメインを作成するには、`create_subscriber.sh` スクリプトを次のとおり実行します。

```
./create_subscriber.sh -host machine1.acme.com -port 389
-SubscriberName NewCompany ¥
-SubscriberNamingAttribute dc ¥
-SubscriberObjectclass domain ¥
-SubscriberParentDN dc=com ¥
-CurrentUserDN cn=orcladmin ¥
-CurrentUserPassword SuperUserPassword
```

この操作によって、`dc=NewCompany,dc=com` という DN で、Oracle Internet Directory に新しいドメインを作成できます。Oracle ソフトウェアでは、DN `cn=users,dc=NewCompany,dc=com` の下にこのドメインのユーザーが存在します。

## 新しいドメインでのユーザーによる電子メール・アクセスのプロビジョニング

Oracle Internet Directory に新しいドメインを作成した後、Oracle Email 管理ツールを使用して、関連付けられた電子メール・ドメインおよびユーザーを作成します。

**参照：**『Oracle Email 管理者ガイド』の第 3 章を参照してください。



## 既知の問題点

この項では、Oracle Email の既知の不具合について説明します。

- [コア・サーバー](#)
- [プロトコル・サーバー](#)
- [Thin クライアント](#)

## コア・サーバー

表 5-1

Bug#	説明
2507654	Middle-Tier の構成では、ユーザーは、ドロップダウン・リストから有効なメール・ストアを選択できます。ただし、ドロップダウン・リストの最初の文字列は空です。 解決方法：ドロップダウン・リストを拡張し、使用可能なメール・ストアを表示します。
2495971	リリース 9.2.0.1 の LogMiner の制限のため、4KB を超えるメッセージはリカバリできません。
2482705	サーバー側ルールのアクションがメッセージを受信ボックスに移動する場合、メッセージは処理されたとみなされず、後続のルールが再度そのメッセージを処理します。
2480480	umconfig.bat スクリプトを使用して複数のメール・ストアを構成すると、 %ORACLE_HOME%\oes\log\createmailstore.log に次のエラーが記録されます。  javax.naming.NameNotFoundException: [LDAP: error code 32 - No Such Object]; remaining name  このエラーは無視できます。
2475304	一部のルールは削除できません。  API は、未定義のルールを受け入れます。ルールは、イベント別にグループ化されます。各イベントには、ルールがリストに含まれます。特定のイベントに対してルールが定義されていない場合は、そのイベントに対して定義されたルール・リストも存在しません。イベントが、空のルール・リストに関連付けられることはありません。
2469603	システム、ドメインおよびユーザーのルールは、必ずしも特定の順序で処理されるとはかぎりません。
2465475	メッセージが他のアクションの処理対象にもなっている場合、ルールの「INBOX への移動」アクションを実行しても、受信ボックスにメッセージを保存できません。  「INBOX への移動」アクションを実行するルールを作成すると、このアクションを実行するメッセージ（受信ボックスに格納されている）を他のアクション（「Move to folder1」など）によって移動できます。この操作は、メッセージが両方のアクションを保証する場合に実行できます。ただし、先に move to folder1 を実行すると、メッセージは、すべてのルールの実行中に folder1 に格納され、このメッセージに適用されるルールの数にかかわらず、その後の移動の対象となります。  解決方法：移動先には、受信ボックスを使用せず、通常のフォルダを使用してください。OJMA SDK ユーザーは、「Move to INBOX」アクションの直後に、プログラムによって「ブレイク」アクションを挿入し、その後のルールが実行されないようにすることもできます。
2451771	異なるドメインで同じユーザー ID を持つ 2 人のユーザーが、同じ名前の共有フォルダを作成することはできません。
2445578	ポートレットでは、Oracle Internet Directory の SSO ユーザー DN を取得できません。
2410821	ネストされたフォルダの階層が深すぎる共有フォルダは作成できません。正常に作成できる共有フォルダの階層数は、様々な要素（ドメイン名の文字列長、ユーザー ID の文字列長、各フォルダ名の文字列長など）によって異なります。作成可能な共有フォルダ階層の最大数は、これらの要素に基づき、インストールごとに異なります。

表 5-1 (続き)

Bug#	説明
2332107	<p>デフォルトで、SYSTEM 表領域に、メッセージ検索のための OracleText 索引が作成されます。</p> <p>次の例では、ユーザーが選択した表領域に索引を作成する方法について説明します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 表領域を作成します。 <pre>CREATE TABLESPACE esoratext   DATAFILE '?:dbs/esoratext.dbf' SIZE 100M   AUTOEXTEND ON   NEXT 10M   MAXSIZE UNLIMITED   EXTENT MANAGEMENT LOCAL AUTOALLOCATE;</pre> </li> <li>2. OracleText 索引を削除し、手順 1 で作成した表領域を使用して索引を作成します。 <p>この表領域を使用するには、索引作成文のパラメータ・リストに <code>STORAGE your_desired_tablespace</code> 句を追加します。</p> <pre>CREATE INDEX es_ot_ix_search ON es_imt_msgbody(text)   indextype IS ctxsys.context   parameters ('DATASTORE es_search_dspref   FILTER CTXSYS.NULL_FILTER   SECTION GROUP es_search_sec_group   STORAGE oratextstore');</pre> </li> </ol> <p><b>参照:</b> 索引作成の詳細は、『Oracle Text リファレンス』を参照してください。</p>

## プロトコル・サーバー

表 5-2

Bug#	説明
2464528	プロトコル・サーバーは、データベース・セッションを作成できなくなると、ハングアップします。プロトコル・サーバーの <code>maximum connection pool</code> パラメータが、メール・ストア・データベースの最大許容セッション数を超える値に設定された場合、この問題が発生します。
2458945	デフォルトのドメイン・パラメータは、インストール時には設定されません。ログイン中、管理者が、完全に修飾されたユーザー ID およびドメイン名ではなく、ユーザー自身のユーザー ID のみをユーザーに指定させる場合は、デフォルトのドメイン・パラメータを IMAP サーバーに設定します。
2381308	IMAP サーバーの <code>timeout interval</code> パラメータを変更した場合、サーバーを、再初期化ではなく、再起動する必要があります。
2371911	Oracle Internet Directory が停止した場合、SMTP サーバーは、明確な説明付きの一時エラーではなく、無効な受信者エラーをクライアントに送信します。
2657244	リスト・サーバーは、リスト・ヘッダーを MIME メッセージの末尾に追加します。

## Thin クライアント

表 5-3

Bug#	説明
2656205	拡張検索の結果画面では、メッセージをソートできません。
260268	ユーザーの割当て制限が変更された場合、次にユーザーがログインするまで変更は反映されません。
2517956	管理ツールの「ディレクトリのユーザー作成画面に戻る」リダイレクト・ボタンは機能しません。管理者は、Delgated Administration Service (DAS) の URL を、手動で入力する必要があります。

表 5-3 (続き)

Bug#	説明
2509833	<p>チッリ・テキスト・モードのメッセージ作成の画面は標準 508 にコーディングされていますが、サード・パーティの依存コンポーネントのため、補助機能に依存するユーザーにユーザビリティの問題が認められます。</p> <p>オラクル社では、依頼があれば、これらのユーザビリティの問題を回避するためのパッチを提供します。</p> <p>これらの問題には、次のものが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ メッセージの入力フィールドが応答しない。</li> <li>■ コンポーザ・ツールバーの編集アイコンでは、タブ編集ができない。</li> <li>■ キーストロークでは、書式設定機能が使用できない。</li> <li>■ ファイルのアップロード用の参照ボタンが応答しない。</li> </ul>
2505850	共有フォルダ・オプションのセクションは変換されません。
2503322	<p>Thin クライアントの数ページで、スキップ・ナビゲーション・リンクが、補助機能では適切に動作しません。</p> <p>解決方法: [Insert]+[z] を押して、仮想カーソル・モードを無効にします。この操作の後、スキップ・ナビゲーション・リンクは適切に動作します。</p>
2512659	無効な日付のエラー・メッセージは変換されません。
2512630	メッセージ・サイズのバイト値は変換されません。
2506161	英語とユーザー・インタフェース変換が一致していません。
2504058	デフォルトの SSO 言語が英語以外に設定されている場合、言語に英語は使用されません。
2478236	<p>新しい Oracle Collaboration Suite ベース・ユーザーの作成時、このユーザーの電子メール・アカウントがまだ作成されていない場合でも、DAS によって電子メール・アドレスをこのユーザーに関連付ける必要があります。</p> <p>この電子メール・アドレスは、このユーザーのベース・ユーザー・オブジェクト内の電子メール・アドレスの配列に、最初のエントリとして格納されます。このユーザーに対して電子メール・アカウントを作成すると、電子メール・アドレスもこのユーザーに対して作成されます。この新しい電子メール・アドレスは、電子メール・アドレスのベース・ユーザー・オブジェクトの配列にも追加されます。ただし、先頭に位置するように最初の項目と置き換えられたり、配列が再度並べ替えられるのではなく、配列に追加されます。</p> <p>以前のリリースでは、Thin クライアントは配列の最初のアドレスのみを参照し、そのアカウントへのログインを試行しました。このアドレスは、DAS ユーザーの作成時に指定されたため、有効な Oracle Collaboration Suite アカウントである保証はありませんでした。</p> <p>Thin クライアントは、サーバー API を使用して、すべての有効な電子メール・アドレスを問い合わせ、このサブセットの最初のアカウントへのログインを試行します。</p> <p>たとえば、DAS ユーザーの作成時に、管理者が Oracle Collaboration Suite に対して有効な電子メール・アドレスを指定し、指定した電子メール・アドレスに、Oracle Collaboration Suite インストール用の電子メール・アドレスでの適切なドメインが含まれている場合、電子メール・アドレスにアカウントが関連付けられていない場合でも、この電子メール・アドレスは、新しい API によって戻されるアドレス・セットの最初の項目になります。これが原因で、Thin クライアントは不適切な電子メール・アドレスにログインします。</p> <p>この問題を解決するために、管理者は、DAS HTML UI ユーザー作成ページを使用してユーザーを作成する場合、指定する電子メール・アドレスに注意して、指定したアドレスが最終的に電子メール・サーバーで使用されるアドレスと同じになるようにする必要があります。無効であるにもかかわらず有効に見える電子メール・アドレスがすでに指定されている場合、管理者は、Oracle Internet Directory Tools を使用して、手動で電子メール・アドレスのベース・ユーザー・オブジェクトの配列を更新する必要があります。</p>
2475379	「すべてのフォルダ」ページには、フォルダ・ツリーを拡張または縮小するためのアイコンが含まれています。この機能を実行すると、ページの先頭が表示されます。
2475308	受信ボックスは昇順または降順で格納できますが、これを示す矢印のリンクがはっきり表示されません。かわりに、スクリーン・リーダーに「javascript colon sort ...」と表示されます。
2452291 および 2452268	アドレス帳の拡張検索には、「エントリ」と呼ばれる検索属性が存在します。この属性は、エントリの接続名の配布リストまたは別名を示します。

表 5-3 (続き)

Bug#	説明
2475139	フォルダ名を指定してフィルタを作成すると、その後フォルダ名を変更しても、ルールは更新されません。このルールは、存在しないフォルダを指します。
2474955	メッセージの削除時にユーザーに通知するルールを作成した場合、メッセージ削除の設定を、メッセージを完全に削除せずに、ごみ箱に送るように設定すると、2つの通知が送信されます。
2474514	フィルタでは、大 / 小文字を区別する検索が使用されます。大 / 小文字を区別する必要がない場合は、現在、複数のルール基準が必要です。
2472988	ユーザーが割当て制限を超える場合、送信したメッセージは、送信済フォルダにコピーされません。
2459070	共有フォルダを圧縮すると、エラー・メッセージが表示されます。
2455819	重複するリストを作成したときのエラー・メッセージがはっきり表示されません。
2452135	アドレス帳の単純検索には、「番号」と呼ばれる検索属性（エンド・ユーザーには表示されません）が存在します。この番号は検索に使用する数値のため、「会社の電話番号」を指します。
2451875	重複する接続名を作成したときのエラー・メッセージがはっきり表示されません。
2449521	検索結果表では、未読メッセージが太字で表示されません。
2449396	検索結果リストから特定の項目を参照すると、軌跡リンクの不具合のため、検索結果リストに戻ることができません。
2446690	フォルダの変更時に生成される様々なエラー・メッセージによって、ビューを閉じて前のビューに戻る方法がない画面が生成されます。この問題を解決するには、ブラウザの「戻る」ボタンを使用し、前のページをリフレッシュします。
2445252	メッセージをサイズ順にソートすると、Internet Explorer 5 は断続的にクラッシュします。
2378967	新しいディレクトリ接続を作成すると、フィールドの検証が行われません。
2510219	マルチバイトの表示名および件名は、通知内では破損します。
2510174	Thin クライアントによって、自動返信される件名およびテキスト行の両方が破損します。
2478206	マルチバイトのユーザー ID を持つ電子メール・ユーザーは、Thin クライアントにログインできません。

## ドキュメントの誤記

次に、『Oracle Email 管理者ガイド』の誤記について説明します。

- [install\\_infra.sql スクリプトの実行](#)
- [LDAP Connection Retry Interval パラメータ](#)
- [リスト・サーバーのリスト・タイプ](#)

### install\_infra.sql スクリプトの実行

メール・ストアが Information Storage CD からインストールされなかった場合は、install\_infra.sql スクリプトをユーザー・システムから実行する必要があります。

### LDAP Connection Retry Interval パラメータ

リリース 9.0.3.1 では、LDAP Connection Retry Interval パラメータの単位は秒です。ただし、リリース 9.0.3.2 では、LDAP Connection Retry Interval パラメータの単位はマイクロ秒です。

### リスト・サーバーのリスト・タイプ

次に、リスト・サーバーの主な属性を示します。

**表 5-4 グループ・タイプ (LDAP - orclMailGroupType)**

タイプ	説明
アナウンス	このリスト・タイプでは、次のことを行います。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ リストに対して送信された電子メールへの自動返信または DSN が、送信者に配信されます。</li> <li>■ リストに対して配信された電子メールに、返信先ヘッダーが設定されません。announcement リストで受信したヘッダーへの返信では、元の送信者へのみ電子メールが配信されます。</li> </ul>
ディスカッション	このリスト・タイプは、リストで多数のディスカッションが行われている場合に使用します。リストに対して送信されたメールには、リスト名を含む返信先ヘッダーが設定されます。このリストに対して送信された電子メールへの返信は、元の送信者のみでなく、そのリストに対しても送信されます。自動返信および DSN はブロックされず、送信者に配信されます。
編集	このリスト・タイプには、リストに電子メールをポストできるユーザーに制限があります。orclMailGroupEditorsList 属性には、電子メール・アドレスのリストが含まれます。このうちのいずれかの編集者からリストに配信された電子メールのみがそのリストに配信されます。その他のユーザーからのメールは拒否されます。自動返信および DSN はブロックされず、送信者に配信されます。
モデレート	このリスト・タイプには、orclMailGroupModeratorsList 属性に格納されたモデレータの電子メール・アドレスのリストが含まれます。このリストに送信されたメールは、すべてのモデレータに配信されます。メールをリストにポストするには、1 人以上のモデレータが配信後 3 日以内にメールを承認する必要があります。

**表 5-5 サブスクリプション・タイプ (LDAP - orclMailGroupSubscriptionType)**

タイプ	説明
オープン	すべてのユーザーが、承認なしでリストにサブスクライブできます。
制限	すべてのサブスクリプション要求がリストの所有者 (LDAP - orclMailOwner) に送信されます。所有者がサブスクリプションを承認した場合のみ、リストにユーザーを追加できます。
クローズ	このリストにサブスクライブしようとするユーザーは、サブスクライブを許可されません。所有者によって招待された場合のみ、リストへの参加が許可されます。これによって、リストの所有者にサブスクリプション要求でいっぱいになることを回避できます。

表 5-6 ポスト・タイプ (LDAP - orclMailGroupPostType)

タイプ	説明
サブスクリイバ	リストへのサブスクリイバのみがリストに電子メールをポストできます。その他のユーザーからのメールは拒否されます。
オープン	リストにサブスクリイブするかどうかにかかわらず、すべてのユーザーがリストにメールをポストできます。

---

# Oracle Files for Windows NT/2000 リリース・ノート

原典情報 : B10051-01 Oracle Files Release Notes Release 9.0.3.2.0 for Windows NT/2000

- [Oracle Files の概要](#)
- [認証およびシステム要件](#)
- [グローバリゼーション・サポートの問題点](#)
- [Oracle Internet Directory の問題点](#)
- [クライアント固有の問題点](#)
- [ドキュメントの問題点](#)
- [NTFS プロトコル・サーバーの構成](#)
- [Windows ユーザーによるネットワーク・ドライブとしての Oracle Files のマップ](#)
- [NFS での Oracle Files の使用](#)
- [Webcache が有効な状態での Oracle Files の実行](#)
- [既知の問題](#)

## Oracle Files の概要

Oracle Collaboration Suite の主要コンポーネントである Oracle Files は、より生産的な共同作業が可能なコンテンツ管理機能（たとえば、バージョンング）を備えた企業のファイル・サーバーに代わるものとして設計されています。

Oracle Files には、次の特長があります。

- ファイルの共有および共同作業のサポート
- 大規模で、使いやすい配置のために設計された Web UI
- ワークスペース・ベースの共同作業
- カテゴリ、バージョンング、コンテンツ・ベース検索などのコンテンツ管理機能
- 承認とルーティングのためのワークフロー統合
- 単一ファイル・リカバリのためのユーザーおよび管理者オプション
- 拡張性、信頼性、セキュリティおよびプラットフォーム非依存

これらの機能によって、IT 管理者はファイル・サーバーの統合によってコストを削減でき、同時に従業員はより生産的に作業できるようになります。

## 認証およびシステム要件

Oracle9i データベース・サーバー リリース 9.0.1.3 では、一部の優先順位の高い不具合が修正されています。このリリースのデータベースが入手可能になった場合は、すぐにアップグレードする必要があります。

## 対応クライアント

次の日本語版クライアント・ソフトウェアは Oracle Files で使用できることを確認済です。対応クライアント・ソフトウェアに関する最新情報は、日本オラクルのホームページの製品情報ページにあるシステム要件を参照してください。

## Microsoft Windows

### Microsoft Windows クライアント・オペレーティング・システム（SMB を介した Oracle Files サーバーへのアクセス用）

- Microsoft Windows NT 4.0 Workstation または Server（Service Pack 6 以上）
- Microsoft Windows 98
- Microsoft Windows 2000 Professional および Server

### Web ブラウザ（Web インタフェース用）

- Netscape Communicator 4.72 以上  
今回のリリースでは、Netscape 6.x 以上はサポートされていません。
- Microsoft Internet Explorer 5.0 および 5.5  
Internet Explorer 6.0 以上は対応していません。

### FTP クライアント

- FTP コマンドライン



## Apple Macintosh

### Apple Macintosh クライアント（AFP を介した Oracle Files サーバーへのアクセス用）

- Mac OS 9.0.4、Mac OS 9.1 および Mac OS X:

### Web ブラウザ（Web インタフェース用）

- Netscape Communicator リリース 4.73 以上（今回のリリースでは、Netscape 6.x はサポートされていません。）

## UNIX

### NFS クライアント

- Sun Solaris 2.6、Solaris 7 および Solaris 8
- Red Hat Linux 6.2

## グローバル化・サポートの問題点

ここでは、Oracle Files およびグローバル化・サポートの問題点について説明します。

- [キャラクタ・セットの制限](#)
- [Oracle Files のユーザー名へのマルチバイト・キャラクタの使用禁止](#)

## キャラクタ・セットの制限

Oracle Files では、アジア言語の AL32UTF-8 データベースはサポートされません。Oracle Text では、AL32UTF-8 データベースで中国語、日本語および韓国語のレクサーがサポートされないためです。AL32UTF-8 データベースでは、中国語、日本語および韓国語のドキュメントは索引付けまたは検索できません。Unicode ベースのファイル・システムでは、UTF-8 が推奨キャラクタ・セットです。「既知の問題点」の Bug#2391425 および Bug#1926886 を参照してください。

## Oracle Files のユーザー名へのマルチバイト・キャラクタの使用禁止

Oracle Files では、マルチバイト・キャラクタ・セットはサポートされていますが、マルチバイト・キャラクタを使用して作成されたユーザー・アカウント名はサポートされません。Oracle Files 用のユーザー・アカウントを作成する場合は、シングルスバイト・キャラクタのみを使用して名前を作成する必要があります。アカウント名にマルチバイト・キャラクタが含まれている場合は、コンテンツへのアクセスに使用できない Oracle Files プロトコル・サーバーが多数あります。

## Oracle Internet Directory の問題点

すべての既知の問題点については、Oracle Internet Directory 関連マニュアルを参照してください。この項では、Oracle Files に固有の問題点のみについて説明します。「[構成上の不具合](#)」で説明する一部の不具合は、Oracle Internet Directory をサポートするデータベース・インスタンスを、Oracle9i データベース・サーバー リリース 9.0.1.3 に（入手可能になるとすぐに）アップグレードすることによって修正されます。

## 特定のプロトコル・サーバーでの Oracle Files 固有のパスワードの使用

多くのプロトコル（AFP、FTP など）で、暗号化されていないパスワードがネットワーク上を送信されます。その他のプロトコル（HTTP、SMB など）でも、一部の構成ではユーザー・パスワードがそのまま（暗号化されていない、クリアテキストとして）送信されます。

セキュリティ上、暗号化されていないパスワードの送信は、Oracle Files で Oracle Internet Directory を使用してユーザー・パスワードを管理する場合に問題となります。Oracle Files へのアクセスを可能にする

パスワードで、認証を得るために Oracle Internet Directory を使用する他のすべてのアプリケーションへのアクセスも可能になるためです。

この問題点への対処として、Oracle Internet Directory では、各ユーザーに、アプリケーション固有の別のパスワードがサポートされています。Oracle Files では、Oracle Internet Directory でこの機能がサポートされています。この Oracle Files の別のパスワードは、「Oracle Files 固有のパスワード」と呼ばれます。この結果、Oracle Files の各ユーザーは、Oracle Internet Directory 共通のパスワードおよび Oracle Files 固有のパスワードの2つのパスワードを所有できます。

Oracle Files を構成して、Oracle Internet Directory 共通のパスワードまたは Oracle Files 固有のパスワードをプロトコル単位で使用できます。デフォルトでは、AFP および FTP では Oracle Files 固有のパスワードが使用され、その他のプロトコルでは Oracle Internet Directory 共通のパスワードが使用されます。したがって、Oracle Enterprise Manager または Oracle Files の Web ユーザー・インタフェースを使用して Oracle Files 固有のパスワードを設定するまで、AFP または FTP を使用して Oracle Files にアクセスすることはできません。詳細は、各ポート固有の Oracle Collaboration Suite インストレーション・ガイドを参照してください。

デフォルトの構成が適さない Oracle Files の配置もあります。Oracle Files の Credential Manager Configuration Assistant を使用して構成を変更できます。詳細は、各ポート固有の Oracle Collaboration Suite インストレーション・ガイドを参照してください。

## Oracle Internet Directory レプリケーション・サーバーを使用した Oracle Internet Directory の変更ログのクリーンアップ

Oracle Files では、Oracle Internet Directory で行われたユーザーおよびグループ変更の通知の受信に、Directory Integration Platform によって提供される Provisioning Integration Service が必要です。これらの変更は、Oracle Internet Directory の変更ログに格納され、Provisioning Integration Service によって適切にフィルタ処理された後で、変更イベントとして Oracle Files に配信されます。レプリケーション・モードで Oracle Internet Directory Server を配置していない場合でも、ディレクトリ管理者がレプリケーション・サーバーを起動して変更ログの不要なエントリを定期的に削除することを確認してください。

この操作は、次のコマンドを使用してレプリケーション・サーバーを起動することによって実行できます。

```
oidctl connect=net_service_name server=oidrepld instance=1 flags="-p ldapserver_port_number" start
```

この定期的なクリーンアップを実行しない場合、Oracle Internet Directory の変更ログがファイル・システム全体を占有する可能性があります。その結果、Oracle Internet Directory サービスが使用不可能になる場合があります。変更ログのクリーンアップにレプリケーション・サーバーの起動が必要であることは一時的な制限事項で、将来のリリースではなくなる予定です。

レプリケーション・サーバーの起動および停止の詳細は、『Oracle Internet Directory 管理者ガイド』を参照してください。

## クライアント固有の問題点

Oracle Files を使用する前に、ここで説明するクライアント固有の問題点に注意してください。

### Oracle FileSync ユーティリティ

FileSync ユーティリティを使用すると、ローカル・マシンで自分が行った変更、および Oracle Files で自分または他のユーザーが行った変更を検出できます。また、通常、これらの変更の競合を解決できます。ただし、一部の変更の競合は、現在の FileSync では解決できません。この場合、FileSync によって提供されるオプションは、これらのファイル変更の同期化を「スキップする」オプションのみです。

現在、次のタイプの競合は自動的に解決できません（「ソース」は元のファイルを、「ターゲット」は結果のファイルを示します）。

- NEW/DELETE（NEW のターゲットが DELETE のソースと競合する場合）。たとえば、ローカル・フォルダと Oracle Files のフォルダが同期化されており、ローカル・フォルダに新しいファイルが作成され、Oracle Files でそのフォルダが削除されている場合です。現在、この競合は解決できません。

- NEW/COPY (NEW のターゲットが COPY のソースまたはターゲットと競合する場合)。
- NEW/EDIT (NEW のターゲットが EDIT のターゲットと競合する場合)。
- NEW/MOVE (NEW のターゲットが MOVE のソースまたはターゲットと競合する場合)。
- MOVE/EDIT (EDIT のターゲットが MOVE のソースまたはターゲットと競合する場合)。
- MOVE/DELETE (DELETE のソースが MOVE のソースまたはターゲットと競合する場合)。
- MOVE/MOVE (両方の MOVE のソースおよびターゲットが両方とも競合する可能性がある場合)。
- COPY/COPY (両方の COPY のソースおよびターゲットが両方とも競合する可能性がある場合)。
- COPY/DELETE (DELETE のソースが COPY のソースまたはターゲットと競合する場合)。
- COPY/EDIT (EDIT のターゲットが COPY のソースまたはターゲットと競合する場合)。
- COPY/MOVE (COPY と MOVE のソースおよびターゲットが両方とも競合する可能性がある場合)。

## ドキュメントの問題点

管理用のオンライン・ヘルプのテキストには、古い製品名が含まれている場合があります。この情報は、次のリリースで更新されます。

Oracle9iAS Single Sign-On に関する情報は、Oracle Files のオンライン・ヘルプでは参照できません。この情報は、次のリリースで参照可能になります。

『Oracle Files 管理ガイド』では、「Oracle Files Manager」という用語が使用されていますが、正しくは「Oracle Enterprise Manager」です。

## NTFS プロトコル・サーバーの構成

NTFS プロトコル・サーバーは、Windows サーバーのファイル・システムから Oracle Files にアクセスする Windows サーバー上に仮想ディスク・ドライブを作成します。この仮想ディスク・ドライブは、Windows のネットワーク・ファイル共有を使用して共有できます。これによって、Windows クライアント・ネットワークから Oracle Files のファイルにアクセスできます（詳細は、「[Windows ユーザーによるネットワーク・ドライブとしての Oracle Files のマップ](#)」を参照）。

NTFS プロトコル・サーバーは、Windows サーバーのユーザー名と Oracle Files のユーザー名を比較して、Windows サーバーからのアクセスを制御します。あらかじめ Oracle Files がインストールおよび起動された後、仮想ディスクが作成され、ドライブ O が割り当てられます。この時点では、O ドライブのファイルへはアクセスできません。これは、すべてのファイル・アクセスには認証ユーザーが必要であり、Oracle Files のインストール直後は、ユーザーがいないためです。

O ドライブにアクセスするには、Oracle Files ユーザーに、Oracle Files の起動に使用した、Windows サーバー・ユーザー（Windows サーバー管理者）と同じユーザー名を割り当てる必要があります。この Oracle Files ユーザーを割り当てると、Windows サーバー管理者は O ドライブのファイルにアクセスできるようになります。

Oracle Files ユーザーを割り当てるには、Oracle Internet Directory にユーザーを作成する必要があります。Oracle Internet Directory で作成されたユーザーは、FilesOidUserSynchronizationAgent によって、自動的に Oracle Files に割り当てられます。このエージェントは、デフォルトで 24 時間ごとに実行されますが、このデフォルトの間隔をリセットして、より頻繁に実行することもできます。Oracle Internet Directory にユーザーを作成し、これらのユーザーを Oracle Files に自動的に割り当てる方法は、『Oracle Collaboration Suite for HP 9000 Series HP-UX, Linux Intel, and Solaris Operating System (SPARC) インストレーション・ガイド』の第 6 章を参照してください。

Oracle Files ユーザーの作成後、Windows サーバー管理者が O ドライブのアクセスできることを確認します。

Oracle Files Configuration Assistant の実行の完了後、Windows サーバー管理者は、次の手順で NTFS プロトコル・サーバーを正しく構成する必要があります。

1. 再起動して、Oracle FilesNTFS ドライバ (oraifsd.sys) のインストールを完了します。

2. Oracle Files ユーザーを Oracle Internet Directory に作成します。このユーザーの名前は、Windows 管理者グループの Windows ユーザー（Windows サーバー管理者）と同じである必要があります。そうでない場合、このユーザーは NTFS ドライブを起動できません。
3. コマンドライン（MS-DOS）で `ifsctl start` を実行して、すべての Oracle Files サーバーを起動します。NTFS サーバーを使用して Oracle Files にアクセスすることはできませんが、すべての Oracle Files プロトコル・サーバーおよびエージェントが起動します。
4. Oracle Files ユーザーとして Oracle Internet Directory で作成されたユーザーが、FilesOidUserSynchronizationAgent によって割り当てられるまで待ちます。この処理は、デフォルトで 24 時間ごとに実行されます。デフォルトの同期間隔を短く（たとえば、3 分など）する方法については、『Oracle Collaboration Suite for HP 9000 Series HP-UX, Linux Intel, and Solaris Operating System (SPARC) インストレーション・ガイド』の第 6 章を参照してください。
5. Oracle Enterprise Manager Web Site を使用して、Oracle Files NTFS サーバーを再起動します。または、コマンドラインで `ifsctl stop` および `ifsctl start` を実行して、すべての Oracle Files サーバーを再起動します。これで、NTFS サーバーを使用して Oracle Files にアクセスできます。

デフォルトでは、NTFS プロトコルによって、ルート（O:¥）用の MyHome と AllPublic という Windows ネットワーク共有が作成され、O ドライブの各ディレクトリに AllPublic ディレクトリが作成されます。これらのディレクトリは、ネットワーク共有を作成するために、ローカルの Windows サーバー管理者からアクセス可能である必要があります。Windows サーバー管理者がこれらのディレクトリにアクセスできない場合、ネットワーク共有の作成に失敗します。O ドライブにアクセスできることを確認した後、デフォルトのネットワーク共有が作成できるように、Oracle Enterprise Manager Web Site を使用して、NTFS プロトコル・サーバーを再起動するか、または `ifsctl stop` および `ifsctl start` を使用して、すべてのサーバーを停止および再起動してください。

## Windows ユーザーによるネットワーク・ドライブとしての Oracle Files のマップ

Oracle Files の Web インタフェースを使用すると、Oracle Files ユーザーは、Windows NT/2000 アカウントがなくても、Oracle Files アカウントを使用してログオンできます。ただし、Windows NT/2000 ドライブ・マッピングは、Oracle Files とは別にネイティブの Windows セキュリティ・メカニズムによって制御されます。ユーザーが Windows NT/2000 サーバー上の Oracle Files インスタンスに Windows ファイル共有としてアクセスする前に、Oracle Files ユーザーは、ネイティブの Windows セキュリティ・メカニズムによる認証を受ける必要があります。つまり、Oracle Files NTFS プロトコル・サーバーを Windows ネットワーク・ドライブとしてマップするには、次の要件を満たす必要があります。

1. Windows サーバー管理者は、Windows ユーザー・アカウントをすべての認証済の Oracle Files ユーザーに対して作成する必要があります。
  - Microsoft Windows ドメイン・セキュリティ・モデルを使用している組織の場合は、Windows サーバー管理者は、ドメインのユーザー・マネージャを使用して、ローカル・マシンではなく Windows ドメインにユーザー・アカウントを作成する必要があります。（Oracle Files は、ドメインの接頭辞を無視して、ユーザー名のみを考慮します。そのため、Windows サーバー管理者は、Oracle Files ユーザー名にマップされた Windows ユーザー名がすべての Windows ドメインで一意であることを確認する必要があります。）
  - すでに Windows ユーザー・アカウントが存在する場合、Windows サーバー管理者は、対応する Oracle Files アカウントを割り当てる必要があります。Oracle Internet Directory にユーザーを作成し、これらのユーザーを Oracle Files に自動的に割り当てる方法は、『Oracle Collaboration Suite for HP 9000 Series HP-UX, Linux Intel, and Solaris Operating System (SPARC) インストレーション・ガイド』の第 6 章を参照してください。
2. Windows NT/2000 ドメインのユーザーは、ドライブを Oracle Files サーバーにマップする場合に、プロンプトに対して有効な Windows NT/2000 ユーザー名とパスワードを入力する必要があります。
  - Windows NT/2000 ドメインのユーザーは、ログオン・プロンプトで、次のようにユーザー名の一部として Windows ドメイン名を入力する必要があります。

```
windows-nt/2000_domainname$username
```

次に例を示します。

```
MyDomain\gking
```

ネイティブの Windows セキュリティ・メカニズムを使用して認証されたユーザーは、Windows アカウントと同じ名前を持つユーザーとして、Oracle Files にアクセスできるようになります。

Oracle Files 管理者および Windows NT/2000 管理者は、適切なユーザー・アカウントが Windows および Oracle Internet Directory で作成され、Oracle Files に割り当てられていることを確認する必要があります。情報への不適切なアクセスを回避するために、Oracle Files ユーザー・アカウントに関連付けられた個々のユーザーは、Windows NT/2000 アカウントに関連付けられた個々のユーザーと同じである必要があります。

Oracle Files インスタンスが UNIX サーバーで実行中の場合、UNIX サーバーの SMB プロトコルにアクセスしているユーザーには、Windows のユーザー名とパスワードは不要です。ユーザーに必要なことは、有効な Oracle Files ユーザー・アカウントとパスワードを指定することのみです。

## Windows NT/2000 のファイル共有に関するトラブルシューティング

ネットワーク・ドライブを Oracle Files インスタンスにマップできない場合、Windows NT/2000 管理者は、別の（Oracle Files に依存しない）Windows NT/2000 ファイル共有を作成し、問題が Windows NT/2000 にあるかどうかを判断するために、ユーザーにこのテスト・ドライブにマップさせてみるができます。ネイティブの Windows NT/2000 ファイル共有にマップできない場合は、Windows NT/2000 のドキュメントを参照して、問題を解決してください。

## NFS での Oracle Files の使用

Oracle Files の配置によっては、構成後のタスクとして NFS サーバーの構成を実行する場合があります。このタスクを実行するために、Oracle Files を起動して実行しておく必要はありません。

### NFS サーバーの構成

Oracle Files の NFS プロトコル・サーバー（Windows NT/2000 または UNIX で実行）には、次の異なる 3 つの構成変更を行う必要があります。

- **UNIX UID と Oracle Files ユーザー・アカウントのクライアント・マッピング。**UNIX 認証サーバー上の UNIX UID と Oracle Files ユーザー・アカウント間にマッピングを作成します。これによって、NFS クライアントでの NFS ドライブのマップ時、または UNIX クライアント・オペレーティング・システムへのログイン時に、UNIX のユーザー名とパスワードを指定した後、Oracle Files にアクセスできるようになります。
- **トラステッド・クライアント・リストの設定。**特定の IP アドレス（またはホスト・マシン）あるいはドメインへのアクセス権限の付与または取消しを明示的に行います。トラステッド・クライアント・リストは、NFS プロトコル・セキュリティを向上させるための Oracle 専用の機能です。
- **Network Information Server (NIS) 認証の有効化。**ご使用の環境でユーザー、グループおよびパスワード情報に Network Information Server (NIS) が使用されている場合は、NIS サーバーを使用してユーザーを認証できるように、Oracle Files の NFS プロトコル・サーバーを構成できます。

ほとんどの環境で、UNIX および Oracle Files のアカウントをマップする必要があります。ユーザー・アカウントのマップはドメイン・プロパティのため、動的に更新できます。マッピングを有効にするためにサーバーを再起動する必要はありません。また、サーバーを再起動した後でも、変更は有効です。

トラステッド・クライアント・リストまたは NIS 認証は、NFS サーバーの構成プロパティです。動的ドメイン・プロパティとしても表示されます。

### UNIX UID と Oracle Files ユーザー・アカウントのクライアント・マッピング

Oracle Files の NFS プロトコル・サーバーで、UNIX システムの認証プロセスを使用してユーザーを認証します。UNIX UID（ユーザー ID）番号が、Oracle Files の NFS プロトコル・サーバーに渡されます。

UNIX オペレーティング・システムへのログイン後は、UNIX アカウントが Oracle Files アカウントにマップされているかぎり、追加のログインを実行しなくても Oracle Files にアクセスできます。Windows NFS クライアントを使用している場合は、NFS ドライブをマップするたびに、UNIX のユーザー名とパスワードを指定する必要があります。

UNIX-UID と Oracle Files 間のクライアント・マッピングは、IFS.DOMAIN.PROTOCOL.NFS.UidToUserMap ドメイン・プロパティで構成されます。

1. 次の URL 書式を使用して、Oracle Files ドメイン・コントローラが構成されているマシンで実行中の Oracle Enterprise Manager Web Site に移動します。  
`http://hostname:1810`
2. Oracle9iAS のログオン・ユーザー名およびパスワードを入力して続行します。Oracle9iAS インスタンス用のユーザー名 `ias_admin` と適切なパスワードを入力します。  
インスタンスで実行中のすべての Oracle9iAS システム・コンポーネントが表示されます。このリストには、Oracle Files ドメインも含まれます。  
`IFS_hostname.companyname.com:1521:DBServiceName:FILESSchemaName`
3. ドメイン名のリンクをクリックします。「一般」ページには、ドメイン・コントローラおよびドメインを構成するノードのリストが表示されます。このページの左下には、ドメインの構成オブジェクトへのリンクが表示されます。
4. (「構成」ヘッダーの下にある)「ドメインのプロパティ」のリンクをクリックします。「ドメインのプロパティ」ページには、一度に 25 のプロパティ・バンドルが表示されます。  
`IFS.DOMAIN.PROTOCOL.NFS.UidToUserMap` にスクロールします (2 ページ以上のスクロールが必要な場合があります)。
5. リスト内のハイパーリンクが設定された `IFS.DOMAIN.PROTOCOL.NFS.UidToUserMap` をクリックします。「IFS.DOMAIN.PROTOCOL.NFS.UidToUserMap' の編集」ページが表示されます。  
デフォルトでは、このページに UID 60001 (デフォルトの UNIX の `guest` アカウント) が表示されます。
6. 「追加」ボタンをクリックして UNIX UID を追加し、Oracle Files ユーザー・アカウントへのマッピングを作成します。
  - 「名前」フィールドに UID を入力します。
  - 「値」フィールドに Oracle Files ユーザー・アカウント名を入力します。
  - 「タイプ」の設定は「文字列」のままにしておきます。
7. Oracle Files の NFS プロトコル・サーバーにアクセスする UNIX クライアント・アカウントを持つすべてのユーザーを追加するまで、この方法でユーザーの追加を続けます。

サービス、ノードおよびサーバーの構成オブジェクト・プロパティとは異なり、ドメイン・プロパティへの変更は動的に更新されるため、サーバーを再起動する必要はありません。また、これらの変更は、再起動後も有効です。

## トラステッド・クライアント・リストの設定

Oracle Files のセキュリティを向上させるために、トラステッド・クライアント・リストを作成できます。オラクル社では、再起動後もこのトラステッド・クライアント・リストが使用できるように、構成オブジェクトでこれらの設定を変更し、変更した構成オブジェクトを使用してサービス上のサーバーをロードすることをお勧めします (オプションで、これらのプロパティを動的に変更できます)。

1. 次の URL 書式を使用して、Oracle Files ドメイン・コントローラが構成されているマシンで実行中の Oracle Enterprise Manager Web Site に移動します。  
`http://hostname:1810`
2. Oracle9iAS のログオン・ユーザー名およびパスワードを入力して続行します。Oracle9iAS インスタンス用のユーザー名 `ias_admin` と適切なパスワードを入力します。  
このリストには、Oracle Files ドメインも含まれます。  
`IFS_hostname.companyname.com:1521:DB_Service_Name:FILES_Schema_Name`
3. ドメイン名のリンクをクリックします。「一般」ページには、ドメイン・コントローラおよびドメインを構成するノードのリストが表示されます。
4. (「構成」ヘッダーの下にある)「サーバー構成」のリンクをクリックします。「サーバー構成」ページには、一度に 25 のプロパティ・バンドルが表示されます。`NfsServerConfiguration` にスクロールします。

5. NfsServerConfiguration オブジェクト・リンクをクリックします。「NfsServerConfiguration」の編集」ページが表示されます。
  6. このページの「プロパティ」セクションの IFS.SERVER.PROTOCOL.NFS.TrustedClientList および IFS.SERVER.PROTOCOL.NFS.TrustedClientsEnabled プロパティにスクロールします（2 ページ以上のスクロールが必要な場合があります）。
  7. IFS.SERVER.PROTOCOL.NFS.TrustedClientsEnabled プロパティ名の横にあるラジオ・ボタンをクリック後、「編集」ボタンをクリックして、このプロパティを選択します。このプロパティの「編集プロパティ」ページが表示されます。
  8. （ドロップダウン・セレクトで）値を False から True に変更します。「OK」をクリックして変更を保存します。「NfsServerConfiguration」の編集」ページが再度表示されます。
  9. IFS.SERVER.PROTOCOL.NFS.TrustedClientList プロパティ名の横にあるラジオ・ボタンをクリック後、「編集」ボタンをクリックして、このプロパティを選択します。各エントリは、次のフォーマットで指定できます。
    - **クライアント・アドレス**：ホスト名または IP アドレス（smith.oracle.com、130.35.59.9 など）で指定します。
    - **ドメインの接尾辞**：ピリオドで始まる文字列（.us.oracle.com など）で指定します。
    - **サブネット**：@マークの後に IP アドレスを続けて指定します。オプションで、サブネットのビット長（/n）を続けて、サブネット・アドレス内の重要なビット数を指定できます。サブネット・アドレスの下位 0 バイトは省略される場合があります。

エントリの前にハイフンが付いている場合、その特定のクライアントは、iFS NFS サーバーを介したアクセスが拒否されます。
  10. 「OK」をクリックして変更を保存し、「NfsServerConfiguration」の編集」ページを再度表示します。
  11. 「OK」をクリックして「サーバー構成」ページを保存し、終了します。
- NfsServerConfiguration オブジェクトの変更後、Oracle Enterprise Manager Web インタフェースを使用して、変更した構成オブジェクトをロードするノードに移動する必要があります。
12. NFS プロトコル・サーバー（NfsServer）が実行されているノードをクリックします。「一般」ページが表示されます。このページの最上部にサービスが表示され、その下にサーバーが表示されます。
  13. 既存の NfsServer サーバーを停止します（すでに 1 つがサービスで実行されている場合）。
  14. この NfsServer をアンロードします。
  15. 変更した NFS プロトコル・サーバー・オブジェクトをロードします。
  16. 変更した新しい NfsServer を起動します。
  17. サービスを再起動します。
- 詳細は、各ポート固有の『Oracle Files 管理ガイド』を参照してください。

## Network Information Server (NIS) 認証の有効化

Network Information System (NIS) は、UNIX のパスワード、グループおよびホスト・ファイル情報を統合する集中管理機能です。NIS は、基本的に、大規模な UNIX ネットワーク内の個々のファイル (/etc/group、/etc/passwd、/etc/hosts など) より管理が簡単な情報の分散データベースです。NIS サーバーは UNIX 上で実行します。

1. 次の URL 書式を使用して、Oracle Files ドメイン・コントローラが構成されているマシンで実行中の Oracle Enterprise Manager Web Site に移動します。  
`http://hostname:1810`
2. Oracle9iAS のログオン・ユーザー名およびパスワードを入力して続行します。Oracle9iAS インスタンス用のユーザー名 `ias_admin` と適切なパスワードを入力します。  
 このリストには、Oracle Files ドメインも含まれます。  
`IFS_hostname.companyname.com:1521:DB_Service_Name:FILES_Schema_Name`

3. ドメイン名のリンクをクリックします。「一般」ページには、ドメイン・コントローラおよびドメインを構成するノードのリストが表示されます。
4. («構成»ヘッダーの下にある)「サーバー構成」のリンクをクリックします。「サーバー構成」ページには、一度に 25 のプロパティ・バンドルが表示されます。NfsServerConfiguration にスクロールします。
5. NfsServerConfiguration オブジェクト・リンクをクリックします。「'NfsServerConfiguration' の編集」ページが再度表示されます。
6. このページの「プロパティ」セクションの IFS.SERVER.PROTOCOL.NFS.NISEnabled および IFS.SERVER.PROTOCOL.NFS.NISServiceProvider プロパティにスクロールします。
7. IFS.SERVER.PROTOCOL.NFS.NISEnabled プロパティ名の横にあるラジオ・ボタンをクリック後、「編集」ボタンをクリックして、このプロパティを選択します。このプロパティの「編集プロパティ」ページが表示されます。
8. (ドロップダウン・セレクタで) 値を False から True に変更します。「OK」をクリックして変更を保存し、「'NfsServerConfiguration' の編集」ページを再度表示します。
9. IFS.SERVER.PROTOCOL.NFS.NISServiceProvider プロパティ名の横にあるラジオ・ボタンをクリック後、「編集」ボタンをクリックして、このプロパティを選択します。
10. ご使用のネットワークで、ユーザーの認証に使用される NIS サーバー名を指定します。フォーマットは次のとおりです。

```
nis://NIS_Server_Name/domain_name
```

11. 「OK」をクリックして変更を保存し、「'NfsServerConfiguration' の編集」ページを再度表示します。
12. 「OK」をクリックして「サーバー構成」ページを保存し、終了します。  
NfsServerConfiguration オブジェクトの変更後、Oracle Enterprise Manager Web インタフェースを使用して、変更した構成オブジェクトをロードするノードに移動する必要があります。
13. NFS プロトコル・サーバー (NfsServer) が実行されているノードをクリックします。「一般」ページが表示されます。このページの最上部にサービスが表示され、その下にサーバーが表示されます。
14. 既存の NfsServer サーバーを停止します (すでに 1 つがサービスで実行されている場合)。
15. この NfsServer をアンロードします。
16. 変更した NFS プロトコル・サーバー・オブジェクトをロードします。
17. 変更した新しい NfsServer を起動します。
18. サービスを再起動します。

詳細は、各ポート固有の『Oracle Files 管理ガイド』を参照してください。

## Webcache が有効な状態での Oracle Files の実行

Oracle Files の構成時、「Web サイト情報」画面で、Oracle9iAS Web Cache HTTP Listen (SSL) に対応するホスト名とポート番号を入力し、「SSL 使用可能」チェックボックスをチェックします。

この情報は FilesBaseServerConfiguration に格納され、Oracle Enterprise Manager (http://hostname:1810) を使用して参照できます。

Oracle Files を構成した後、次の手順を実行します。

1. http://hostname:port/pls/orasso/orasso.home に移動します。この場合の hostname は Middle-Tier コンポーネントが指している Infrastructure マシンのホスト名で、ポート番号は Oracle HTTP Server ポート (通常は 7777) に関連付けられています。
2. orcladmin として SSO Server にログオンします。
3. 「SSO サーバー管理」をクリックします。
4. 「パートナ・アプリケーションの管理」を選択します。



5. 「パートナー・アプリケーションの追加」をクリックして新しいパートナー・アプリケーションを追加するか、Middle-Tier インスタンスに関連付けられている鉛筆アイコンをクリックして既存のアプリケーションを編集します。
6. 次のように Home URL を入力または編集します。  
`https://mid-tier_hostname:Oracle9iAS_WebCacheHTTP_Listen(SSL)_port`
7. 次のように Success URL を入力または編集します。  
`https://mid-tier_hostname:Oracle9iAS_WebCacheHTTP_Listen(SSL)_port/osso_login_success`
8. 次のように Logout URL を入力または編集します。  
`https://mid-tier_hostname:Oracle9iAS_WebCacheHTTP_Listen(SSL)_port /osso_logout_success`
9. 「適用」をクリックして、変更の保存を確認します。

# 既知の問題

今回のリリースの Oracle Files には、次の不具合が存在することが確認されています。必要に応じて、解決策を示します。これらの既知の問題は、プロセスまたはコンポーネントによって分類されています。

- 構成上の不具合
- 管理上の不具合
- NFS の不具合
- AFP の不具合
- NTFS の不具合
- Oracle Files の一般的な不具合
- HTTP の不具合
- Oracle FileSync の不具合

## 構成上の不具合

<b>Bug#2391425</b>	<b>NLS: IFSCONFIG は、AL32UTF8 データベースの日本語環境では失敗します。</b>
説明:	Oracle Text が AL32UTF8 データベースで日本語レクサーをサポートしないため、Oracle Files は、アジア言語の AL32UTF8 データベースをサポートしません。
処置:	AL32UTF8 のかわりに UTF8 をデータベースに使用してください。
<b>Bug#2373885</b>	<b>複数の IP アドレスが存在する場合、デフォルト以外の IP アドレスは使用できません。</b>
説明:	この問題は、1 つのホストに複数の IP アドレスが存在する環境で発生します。別の IP アドレスが指定されている場合でも、サーバーの構成オブジェクトの作成にはデフォルトの IP アドレスが使用されます。
処置:	Oracle Files サーバーには、デフォルトの IP アドレスを使用してください。
<b>Bug#2607430</b>	<b>SSL 使用可能インスタンスでサブスクライバを作成すると、予期しないエラーが発生します。</b>
説明:	この問題は、Oracle Internet Directory を SSL モードで実行可能にした後、サブスクライバを作成しようとするとき発生します。この問題は、Java VM ではアクセスできないファイルがあるために発生します。
処置:	次の jar ファイルを ORACLE_HOME¥jlib から ORACLE_HOME¥jdk¥jre¥lib¥ext にコピーしてください。  3. jssl-1_2.jar 4. javax-ssl-1_2.jar  コピーした後、ifscctl および opmn を再起動してください。
<b>Bug#2623754</b>	<b>SSL ポートの使用時に「SSL 使用可能」チェックボックスをチェックしなかった場合、構成は失敗します。</b>
説明:	この問題は、SSL ポートを選択したが、資格証明マネージャが SSL 使用可能であることを指定（構成時にチェックボックスをチェック）しなかった場合に発生します。構成が失敗したことを示すポップアップが繰り返し表示されます。
処置:	Configuration Assistant のインスタンスを取り消します。Configuration Assistant を再度実行し、SSL を選択した場合は「SSL 使用可能」チェックボックスをチェックしてください。

<b>Bug#2623914</b>	<b>Credential Manager Configuration Assistant によって作成された新しい Oracle Internet Directory 資格証明マネージャからユーザーを同期化できません。</b>
説明:	この問題は、iFS の Credential Manager Configuration Assistant ツール (ifscmca) を使用して、明示的に作成された新しい Oracle Internet Directory 資格証明マネージャを使用する場合に発生します。新しい Oracle Internet Directory 資格証明マネージャに登録されたユーザーは同期化されないため、使用できません。
処置:	現在、この機能はサポートされていません。デフォルトの Oracle Internet Directory 資格証明マネージャを使用してください。

## 管理上の不具合

<b>Bug#2408925</b>	<b>OEM では、サービス名に無効な文字を使用できません。</b>
説明:	サービスの構成オブジェクトの名前に「;」が埋め込まれている場合は、問題が発生します。
処置:	なし。この不具合は、ソフトウェアの基礎となる OC4J レイヤーでの問題が原因で発生します。
<b>Bug#2417005</b>	<b>IE 5.0 を使用した場合、OEM の Oracle Files ヘルプ・ページに動作しないリンクが存在します。</b>
説明:	Internet Explorer (IE) 5.0 を使用した場合、動作しないヘルプ・リンクが OEM に存在します。この不具合は、すべてのページに影響するわけではありません。この問題は、Oracle9i Application Server リリース 2 (9.0.2) の一部である Web モジュール用の Oracle Help での制限のために発生します。
処置:	これらの問題が発生しないように、IE 5.5 に移行してください。
<b>Bug#2326481</b>	<b>「プロパティの編集」ページで「値を追加」が動作しません。</b>
説明:	ServiceConfiguration および ServerConfiguration で「string_array」という構成プロパティに項目を追加しても、システムには適切に保存されません。
処置:	項目の追加後、1 つ以上のエントリを並べ替えてください。その後、その変更をコミットしてください。
<b>Bug#2466795</b>	<b>LOB の管理に使用されるデフォルトのベース BFILE パスを変更できません。</b>
説明:	Content Agent が、ドキュメントのコンテンツを、LOB から指定時間後アクセスされていないドキュメントの BFILE に自動的に移動します。デフォルトでは、このエージェントは次のフォルダ・ツリーに BFILE を作成します。
	<code>ORACLE_HOME\ifs\bfile\ifsschema\media</code>
処置:	BFILE を格納する場合は、次のパスから任意のパスを指すシンボリック・リンクを作成します。
	<code>ORACLE_HOME\ifs\bfile\ifsschema\media</code>
<b>Bug#2546586</b>	<b>単一層インストールでは、Oracle Enterprise Manager の Oracle Files ドメインを起動できません。</b>
説明:	この問題は、同じホストに Infrastructure と Middle-Tier 製品がインストールされている場合に発生します。Oracle Enterprise Manager から Oracle Files ドメインを起動しようとすると、一部の起動スクリプトの位置解決の問題が原因でエラーが発生します。
処置:	Oracle Files コマンドライン・ツール (ifscctl) を使用して、ノードおよびドメインを起動および停止してください。Oracle Enterprise Manager では、インスタンスの管理は可能ですが、製品の起動および停止はできません。
<b>Bug#2573630</b>	<b>ネットワーク・ドメインのユーザーは、Oracle Enterprise Manager から Files ドメインを起動できません。</b>
説明:	この問題は、Oracle Enterprise Manager によって必要な処理が起動されなかった場合に発生し、ユーザー権限には関係のないエラーです。
処置:	管理者権限でローカル・マシンの Windows ユーザーを使用して、ドメインを起動してください。

## NFS の不具合

<b>Bug#1749601</b>	<b>Oracle Files の NFS では chgrp を実行できません。</b>
説明:	chgrp を実行しても、ファイルのモードに影響しません。
処置:	なし。セキュリティ・モデルが異なるため、影響はありません。
<b>Bug#1749621</b>	<b>Oracle Files の NFS では chmod を実行できません。</b>
説明:	chmod を実行しても、ファイルのモードに影響しません。
処置:	なし。セキュリティ・モデルが異なるため、影響はありません。
<b>Bug#1750049</b>	<b>モードの属性を設定できません。</b>
説明:	Oracle Files の NFS を介してパーミッション・モードのビットを変更できません。
処置:	なし。セキュリティ・モデルが異なるため、影響はありません。
<b>Bug#1749778</b>	<b>Oracle Files の NFS を使用してリンクを作成できません。</b>
説明:	Oracle Files の NFS では、リンク（シンボリック・リンク、ソフト・リンクまたはハード・リンク）を作成できません。
処置:	なし。この問題は、基礎となる Infrastructure の特性が原因で発生します。
<b>Bug#2333774</b>	<b>名前の最初の文字が標準 ASCII 文字以外のファイルまたはフォルダはコピーできません。</b>
説明:	標準 ASCII 文字以外を最初の文字として使用しているフォルダおよびファイルは、NFS Maestro を使用してコピーできません。
処置:	他の NFS クライアントを使用してください。この問題は Maestro の制限事項と考えられます。

## AFP の不具合

<b>Bug#1990453</b>	<b>Mac OS Finder を使用して（AFP ボリュームとしてマウントされた）Oracle Files でファイルを暗号化すると、File Encrypt が失敗します。</b>
説明:	Mac OS File-->Encrypt ユーティリティを実行すると、名前に * を含む一時ファイルが作成されます。ただし、Oracle Files ではファイル名にアスタリスクは使用できません。
処置:	Mac でファイルを暗号化しないでください。かわりに、ローカルでファイルを暗号化した後、AFP を介してその暗号化したファイルを Oracle Files にコピーしてください。
<b>Bug#2380571</b>	<b>Mac ファイルのサイズは、リソース・フォークのサイズを考慮しません。</b>
説明:	リソース・フォークのサイズがサイズの計算に含まれていないため、ドキュメントのサイズが正確ではない場合があります。
処置:	なし。
<b>Bug#2463376</b>	<b>ファインダでは、フォルダ表示がリフレッシュされません。</b>
説明:	ファイルの追加、削除、変更によってフォルダのコンテンツが更新されても、AFP ファインダでフォルダ表示がリフレッシュされません。
処置:	この問題を解決するには、ログアウト後、再度ログインします。

## NTFS の不具合

<b>Bug#1289569</b>	<b>ユーザーが削除できないファイルに対する削除処理が実行されたように見えます。</b>
説明:	ユーザーが削除権限を持たないドキュメントを削除しようとした場合、または受信ボックスなど、削除できない特別なオブジェクトを削除しようとした場合、エラー・メッセージが表示されません。
処置:	エラー・メッセージは表示されませんが、ドキュメントまたはフォルダは削除されません。Windows エクスプローラで「リフレッシュ」を選択すると、Windows エクスプローラの画面がリフレッシュされ、ドキュメントまたはフォルダが再度表示されます。

<b>Bug#1113581</b>	<b>バージョンングされたファイルの削除または名前の変更は NTFS ではできません。</b>
説明:	NTFS でバージョンングされたファイルの削除または名前の変更を試行すると、ファイル全体または一部がロックされる場合があることを示す障害メッセージが発行されます。特定のアプリケーション（Microsoft Word、Microsoft Excel など）では、古いドキュメントを削除することによって作業が保存されます。この操作を行うと、データ属性が失われ、Oracle Files のバージョンング機能が低下するため、Oracle Files の NTFS サーバーでは、バージョンングされたファイルの削除または名前の変更はできません。
処置:	Web インタフェースを使用してファイルを削除してください。
<b>Bug#1412048</b>	<b>Windows NT with Service Pack 6 では、一部の .txt ドキュメントをワードパッドで変更および保存できません。</b>
説明:	NT 4.0 with Service Pack 6 で、ワードパッドの属性を読込み専用にしてドキュメントを編集すると、「名前を付けて保存」ダイアログ・ボックスで別名保存できません。ドキュメントを別名保存しようとすると、そのドキュメントが別のアプリケーションで使用中的であるためアクセスできないことを示すエラーが表示されます。
処置:	ワードパッドでドキュメントを編集する前に、読込み専用属性を削除するか、またはノートパッドなどの別のエディタを使用してください。
<b>Bug#1846693</b>	<b>端末サービスのクライアント・セッションから NTFS プロトコル・サーバーを起動できません。</b>
説明:	<p>端末サービス・セッションから NTFS プロトコル・サーバーを起動しようとすると、次のエラー・メッセージが表示されます。</p> <pre>OracleIfsd driver failed to start. If an Oracle iFS installation has just been completed then a system restart may be needed to complete the installation of the OracleIfsd driver.</pre> <p>NTFS プロトコル・サーバーは、Windows 端末サービスのクライアント・セッションからは起動できません。</p>
処置:	端末サービスのクライアント・セッションから起動するのではなく、Windows サーバー・コンソールから Oracle Files を起動してください。Windows 端末サービスのクライアント・セッションからアクセスできるのは、端末セッションの起動時に定義済みのデバイスのみです。
<b>Bug#1937209</b>	<b>Oracle Files にマップされたドライブに Outlook 2000 からメールをドラッグできません。</b>
説明:	ドラッグ・アンド・ドロップを使用して、Oracle Files にマップされたドライブに Outlook 2000 からメールを移動すると、ファイルをドロップできないことを示すエラー・メッセージが表示され、マップされたドライブに長さが 0（ゼロ）のファイルが作成されます。この問題は、Windows NT で Outlook 2000 を使用した場合に発生します。Windows 2000 の場合や Outlook Express を使用した場合は発生しません。
処置:	Outlook からローカルのハード・ドライブにメールをドラッグ・アンド・ドロップした後、そのファイルをローカルのハード・ドライブから Oracle Files にマップされたドライブに移動します。

## Oracle Files の一般的な不具合

<b>Bug#2391425</b> <b>および</b> <b>Bug#1926886</b>	<b>AL32UTF8 データベースのキャラクタ・セットを使用して日本語、中国語または韓国語で検索を行っている場合、コンテンツを検索してもドキュメントは戻されません。</b>
説明:	<p>現在、Oracle Text は、AL32UTF8 データベースでは中国語、日本語または韓国語のレクサーをサポートしません。したがって、中国語、日本語または韓国語のドキュメントは索引付けされないため、これらのドキュメントでの検索はできません。</p> <p>ご使用のロケール設定およびデータベースのセッション言語によっては、Oracle Text の索引作成時に Oracle Files の構成に失敗するか、あるいは構成が正常に実行されたにもかかわらず、中国語、日本語または韓国語のドキュメントでのコンテンツ検索が常に 0 ヒットを返す場合があります。</p>

処置： 次のいずれかを実行してください。

- ご使用のデータベース・キャラクタ設定を AL32UTF から UTF8 に変更してください。
- キャラクタ設定が UTF8 である別のデータベースに Oracle Files をインストールしてください。

---

**Bug#2501304 確認するドキュメントが送信された場合、レビューは承認者として動作します。**

---

説明： 確認するドキュメントを送信すると、すべてのレビューが承認者として扱われます。つまり、承認者のみでなく、すべての承認者およびレビューがドキュメントを承認または拒否できることを意味します。

処置： 確認するドキュメントの送信時に、レビューを割り当てないでください。

---

**Bug#2442345 アーカイブ・フォルダでのページ操作で、作成した BFILE が削除されません。**

---

説明： アーカイブ・フォルダでフォルダを BFILE に変換した後、サブスクライバ管理者がページ操作を実行しても、BFILE は削除されません。

処置： ディスク領域が問題となる場合、システム管理者は、手動でオペレーティング・システム・ファイルを削除できます。

---

**Bug#2473166 参照表でのソートは、Netscape 4.7x では実行できません。**

---

説明： Netscape 4.7x では、参照表の任意の列によってソートを実行しても、ソートは行われません。

処置： Internet Explorer 5.x 以上のブラウザを使用してください。

---

**Bug#2414889 検索で、AFP リソース・フォークが除外されません。**

---

説明： Oracle Files の拡張検索では、検索結果に AFP リソース・フォークが含まれる可能性があります。これらのファイルに対して行われるすべての操作はエラーとなります。

処置： 検索結果内のこれらのファイルは無視してください。

---

**Bug#2222609 Oracle Files では、Internet Explorer 5.x 以上または Netscape 4.7x を介した Oracle Single-Sign-On のみがサポートされます。**

---

説明： 他の Web クライアントを使用して Oracle Files にアクセスすると、再度ログインする必要があります。

処置： Oracle Single-Sign-On を使用して 1 回のみログインするには、Internet Explorer 5.x 以上または Netscape 4.7x をブラウザとして使用してください。

---

**Bug#2522531 Netscape 4.7x では使用できないボタンがあります。**

---

説明： Netscape 4.7x の使用時、Oracle Files アプリケーションの一部のボタン（表フィルタなど）が動作しません。

処置： Internet Explorer 5.5x 以上を使用してください。

---

**Bug#2520112 電子メール・アドレスが無効な場合、エラーが発生します。**

---

説明： 電子メール・アドレスが無効な場合、ワークスペースにユーザーを追加すると失敗します。

処置： すべてのユーザーの電子メール・アドレスが有効であることを確認してください。

---

<b>Bug#2496951</b>	<b>アンダースコア ( _ ) を含むマルチバイトのユーザー名を持つユーザーはログインできません。</b>
説明:	アンダースコアを含むマルチバイトのユーザー名を持つユーザーは、Oracle Files にログインできません。
処置:	マルチバイトのユーザー名にアンダースコアが含まれないようにするか、ユーザー名をシングルバイトに変更してください。マルチバイトのユーザー名を持つユーザーは、Oracle Files の多くのプロトコル・サーバーから Oracle Files にアクセスできないことに注意してください。

## HTTP の不具合

<b>Bug#2337719</b>	<b>セミコロンが含まれている URL は、404 エラーを戻します。</b>
説明:	URL に「;」が埋め込まれている場合、問題が発生します。
処置:	なし。この不具合は、ソフトウェアの基礎となる OC4J レイヤーでの問題が原因で発生します。
<b>Bug#2386806</b>	<b>「%」が含まれている URL は動作しません。</b>
説明:	URL に「%」が埋め込まれている場合は、問題が発生します。
処置:	なし。この不具合は、ソフトウェアの基礎となる OC4J レイヤーでの問題が原因で発生します。
<b>Bug#2482876</b>	<b>パブリック・ファイルの Word ドキュメントへのアクセス時に、ユーザー名 / パスワードを求めるプロンプトが 3 回表示されます。</b>
説明:	読み書き権限を持たないパブリック・ファイルの Word ドキュメントへのアクセスを試行すると、ユーザー名およびパスワードを求めるプロンプトが 3 回表示されます。この場合、ドキュメントは、読み専用モードで開かれます。
処置:	なし。この問題は、Microsoft Word で、読み専用で開く前に、ドキュメントを読み書き両方で 3 回開こうとしたために発生します。
<b>Bug#2355830</b>	<b>Dreamweaver 4 では、WebDAV ロックは実行できません。</b>
説明:	WebDAV を介して Dreamweaver 4 から Oracle Files のコンテンツにアクセスすると、正常に動作しません。最初の問題は、Dreamweaver 4 が、サーバーから戻される適切な XML をサポートしていないことです。これが原因で、サーバー上に格納されたコンテンツが、Dreamweaver 4 で正常に表示されません。この問題のため、Dreamweaver 4 によるドキュメントの暗黙的ロックはサポートされません。
処置:	Macromedia for Dreamweaver 4 から WebDAV パッチをダウンロードすると、暗黙的ロックの問題以外のすべての問題が解決されます。ロックの問題は解決されていません。

## Oracle FileSync の不具合

<b>Bug#2439362</b>	<b>インストーラが、警告なしに既存の Oracle FileSync クライアントを更新します。</b>
説明:	Oracle FileSync インストール・プログラムでは、クライアントの更新の前に警告は発行されません。この新しいクライアントは、Oracle Collaboration Suite でのみ使用できます。
処置:	以前の Oracle Internet File System または Oracle Content Management SDK サーバーにアクセスするには、それらの製品に付属のクライアントを使用してください。
<b>Bug#2374879</b>	<b>名前にパーセント (%) が含まれているサーバー側のフォルダは、同期化されません。</b>
説明:	名前に「%」が埋め込まれているフォルダおよびファイルは、sync 処理を実行しても同期化されません。また、このようなフォルダおよびファイルによって、サーバーへの過剰な HTTP ログインが実行されます。
処置:	ファイル名またはフォルダ名に「%」が含まれていないことを確認してください。この不具合は、ソフトウェアの基礎となる OC4J レイヤーでの問題が原因で発生します。

---

**Bug#1701335 Oracle Filesync を使用して HTTPS で構成された Oracle Files にアクセスできません。**

---

説明：       HTTPS (*hostname:port/files/content*) (この場合のポート番号は Oracle9iAS Web Cache HTTP Listen (SSL) ポート) を経由して Oracle Files に接続しようとすると、Oracle Filesync によって次の例外が発生します。

`java.net.UnknownHostException: https`

処置：       なし。現在、この機能はサポートされていません。

---